第３章　遺構と遺物

今回の調査で検出された遺構は、縄文時代の土坑 10 基（SK3513J ～ SK3515J、SK3517J ～ SK3523J）、歴史時代以降の土坑６基、溝状遺構２条、小穴 13 基、地下室状遺構１基である（第 10 図）。

出土した遺物は、縄文土器 13 点、石器 14 点、土師器１点、須恵器３点である。すべて基本層序Ⅰ層から出土している。

（１）遺構

①土坑

SK3513J（第 14 図、写真 27 ～ 30）

調査区中央北のグリッド 6G で確認された。 平面形は長楕円形を呈する。規模は長さ 2.79m、幅 1.03m、深さ 0.84m を測る。長軸方向は N-87°-W である。遺構断面は U 字状を呈す。下部構造として小穴を３基伴い、底面に一直線上に並ぶ。小穴の平面形は概ね円形で、直径 0.20 ～ 0.16m、土坑底面からの深さ 0.12 ～ 0.19m を測る。立川ローム層Ⅲ層上面で遺構を検出した。長軸壁、短軸壁ともに底面からほぼ垂直に立ち上がり、上部で緩やかに外湾する。

覆土は、基本的には２層に分かれる。上層が黒褐色土主体の自然堆積層であり、下層は暗褐色、明るい黄褐色系の混合した肩部や側壁の崩落土と思われる。

平面形や下部構造に小穴を伴うことから陥し穴と判断した。遺物は出土しなかった。

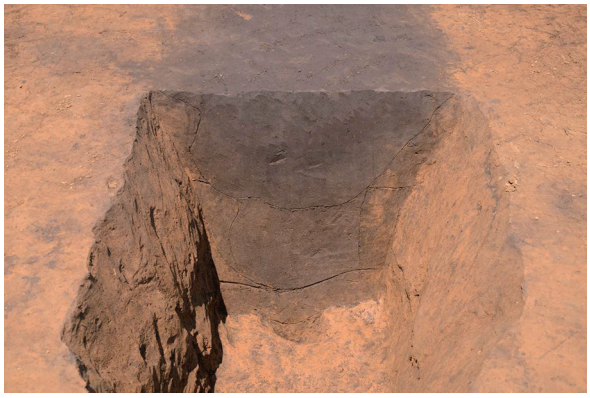
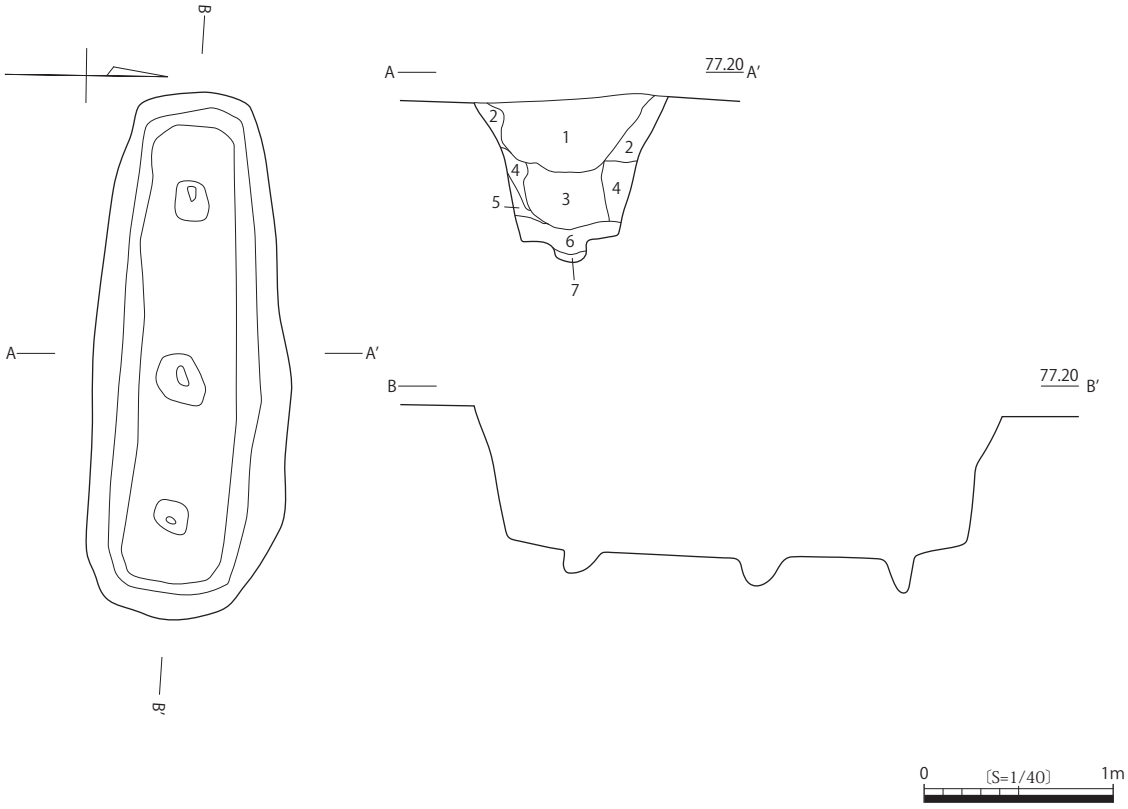


写真 27　SK3513J 断面（東から）

写真 28　SK3513J 完掘（写真上が北）

写真 29　SK3513J 調査風景（東から）

写真 30　SK3513J 調査底部小穴調査風景（東から）



1　10YR3/1 黒褐色土　締り：有り　粘性：有り　φ 1mm 以下のローム粒が少量混じる。
　φ 1 ～ 2mm 以下の焼土粒を多少に含む。赤色スコリアを少量含む。黒色スコリアを微量に含む。
2　10YR4/3 にぶい黄褐色土　締り：有り　粘性：有り　φ 1mm 以下のローム粒が多量に混じる。
　φ 3 ～ 7mm 以下のロームブロックが少量混じる。赤色スコリアを少量含む。
3　10YR4/2 灰黄褐色土　締り：有り　粘性：やや弱い　φ 1mm 以下のローム粒が多量に混じる。
　φ 1mm 以下の焼土粒を多量に含む。赤色スコリアを少量含む。
4　10YR4/1 褐灰色土　締り：有り　粘性：有り　φ 1mm 以下のローム粒が多量に混じる。
　φ 10 ～ 30mm 以下のロームブロックが少量混じる。赤色スコリアを少量含む。
5　10YR5/1 褐灰色土　締り：有り　粘性：有り　φ 1mm 以下のローム粒が多量に混じる。
　φ 10 ～ 30mm 以下のロームブロックが多量に混じる。赤色スコリアを少量含む。
6　10YR5/4 にぶい黄褐色土　締り：有り　粘性：有り　φ 1mm 以下のローム粒が多量に混じる。
　φ 10 ～ 30mm 以下のロームブロックが微量に混じる。赤色スコリアを多量に含む。
7　10YR5/6 黄褐色土　締り：強い　粘性：強い　φ 1mm 以下のローム粒が少量混じる。
　φ 5 ～ 20mm 以下のロームブロックが多量に混じる。赤色スコリアを微量に含む。

第 14 図　SK3513J 平面・断面図

SK3514J 陥し穴（第 15 図、写真 31 ～ 34）

調査区中央北部、グリッド 8I で確認された。平面形は長楕円形を呈する。規模は長さ 2.69m、幅 1.21m、深さは 0.97m を測る。長軸方向 N-12° -W である。遺構断面は Y 字形を呈する。底部は幅 0.2m 程の細い溝状である。覆土の第 4 層はハードロームが主体であったため当初第 4 層を遺構底面と誤認していた。遺構の南北両端で暗褐色土の第 5 層が確認されたため、改めて第 4 ・ 5 層の掘削を行い記録した。第 4 層の埋没状況が一様なため、人為的に埋められた可能性がある。

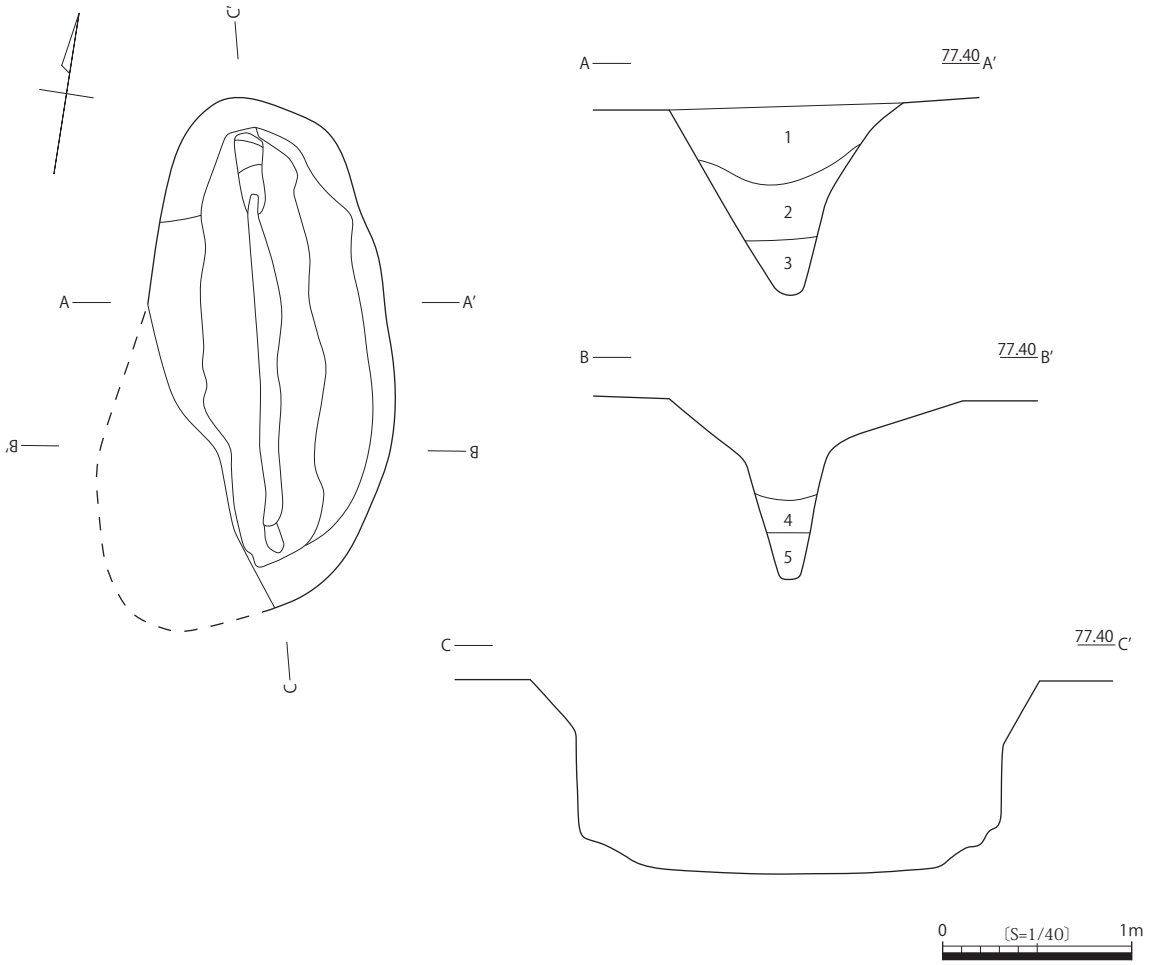
遺構断面が Y 字状を呈する細長い土坑であることから陥し穴と判断した。遺物は出土していない。

写真 31　SK3514J 上部断面（南から）

写真 32　SK3514J 下部断面（南から）

写真 33　SK3514J 完掘（南から）

写真 34　SK3514J 完掘（東から）



1　10YR3/1 黒褐色土　締り：有り　粘性：有り　φ 1mm 以下のローム粒が少量混じる。
　φ 1 ～ 2mm の焼土粒を微量に含む。φ 1 ～ 5mm の赤色スコリアを多量に含む。
2　10YR4/1 褐灰色土　締り：有り　粘性：有り　φ 1mm 以下のローム粒が多量に混じる。
　φ 10 ～ 30mm のロームブロックが少量混じる。φ 1 ～ 2mm の赤色スコリアを少量含む。
3　10YR4/3 にぶい黄褐色土　締り：有り　粘性：有り　φ 1mm 以下のローム粒が多量に混じる。
　φ 10 ～ 30mm のロームブロックが少量混じる。φ 1 ～ 3 mm の赤色スコリアを少量含む。
4　10YR7/6 明黄褐色土　締り：強い　粘性：強い　赤色スコリアを多量に含む。5 層が少量混じる。
　ハードローム主体土。
5　10YR3/3 暗褐色土　締り：有り　粘性：有り　φ 1mm 以下のローム粒が多量に混じる。
　φ 10 ～ 30mm のロームブロックが少量混じる。赤色スコリアを多量に含む。

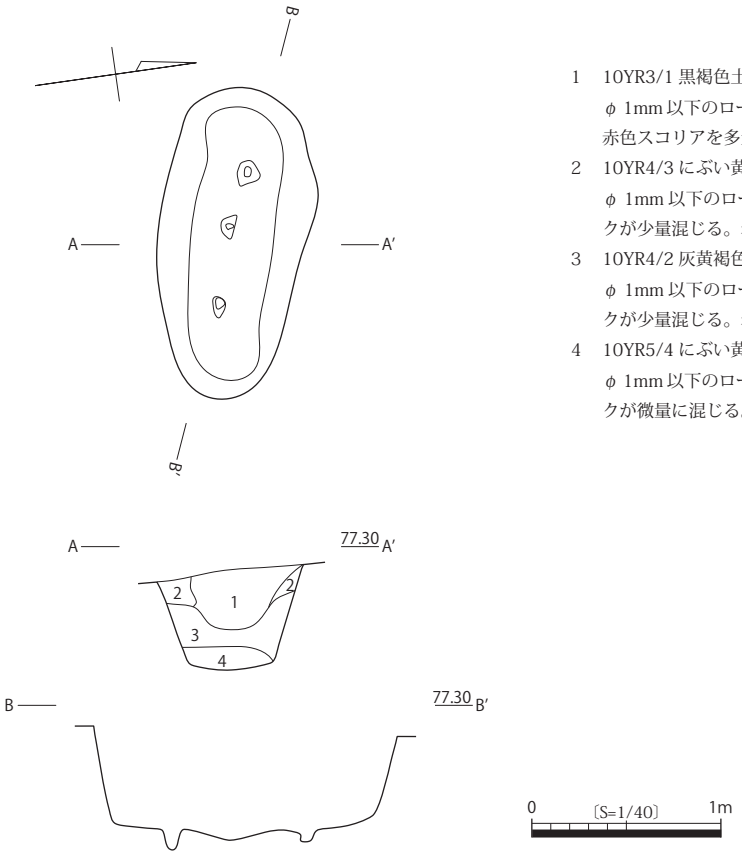
第 15 図　SK3514J 平面・断面図

SK3515J 陥し穴（第 16 図、写真 35・36）

調査区南東部、グリッド 10T で確認された。平面形は長楕円形を呈する。規模は長さ 1.65m、幅 0.77m、深さ 0.56m を測る。長軸方向は N-76°-W である。遺構断面は U 字形を呈する。遺構側面は緩やかに立ち上がる。下部構造として 3 基の小穴を伴う。小穴の平面形は不整形で、直径 0.13 ～ 0.06m、土坑底面からの深さ 0.13 ～ 0.07m を測る。長軸壁、短軸壁ともに底面からやや垂直に立ち上がる。

土坑 SK3513J と同じく、覆土の第 1 層が黒褐色土である。下層にはローム土が多量に混じっており、遺構側面の崩落土の可能性がある。下層は緩やかに埋没したと思われる。

平面形と下部構造に小穴を伴うことから陥し穴と判断した。遺物は出土していない。



1　10YR3/1 黒褐色土　締り：有り　粘性：有り
φ 1mm 以下のローム粒が少量混じる。1 ～ 2mm 以下の焼土粒を多少に含む。赤色スコリアを多量含む。黒色スコリアを微量に含む。

2　10YR4/3 にぶい黄褐色土　締り：有り　粘性：有り
φ 1mm 以下のローム粒が多量に混じる。φ 3 ～ 10mm 以下のロームブロックが少量混じる。赤色スコリアを少量含む。

3　10YR4/2 灰黄褐色土　締り：有り　粘性：やや弱い
φ 1mm 以下のローム粒が多量に混じる。φ 3 ～ 5mm 以下のロームブロックが少量混じる。赤色スコリアを少量含む。

4　10YR5/4 にぶい黄褐色土　締り：有り　粘性：有り
φ 1mm 以下のローム粒が多量に混じる。φ 10 ～ 30mm 以下のロームブロックが微量に混じる。赤色スコリアを多量に含む。

第 16 図　SK3515J 平面・断面図

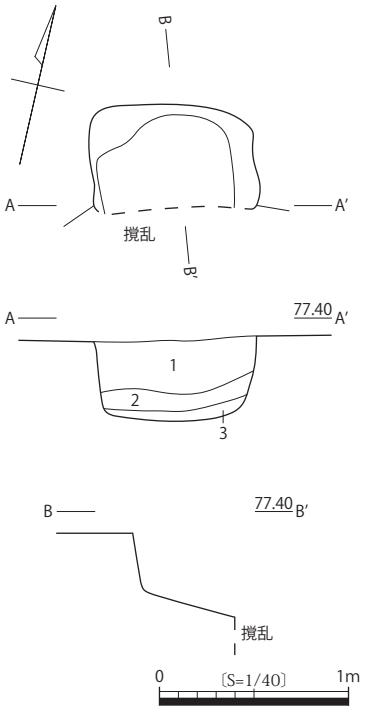
写真 35　SK3515J 断面（南東から）

写真 36　SK3515J 完掘（写真上が北東）

SK3517J（第 17 図、写真 37・38）

調査区南部、グリッド 9P、9Q で確認された。平面形は隅丸方形を呈する。規模は長さ 0.87m、幅 0.55m、深さ 0.45m を測る。長軸方向は N-79˚-E である。

覆土第 1 ・ 2 層は黒褐色土である。遺構断面は箱形を呈する。遺物は出土していない。



1　10YR2/2 黒褐色土　締り：有り　粘性：やや弱い
φ 1mm 以下のローム粒が極少量混じる。φ 1mm 以下の焼土・炭化物粒を極少量含む。赤色スコリアを少量含む。

2　10YR2/2 黒褐色土　締り：有り　粘性：やや弱い
φ 1mm 以下のローム粒が少量混じる。赤色スコリアを多量に含む。

3　10YR3/3 暗褐色土　締り：有り　粘性：有り
φ 1mm 以下のローム粒が多量に混じる。φ 3 ～ 5mm 以下のロームブロックが少量混じる。赤色スコリアを少量含む。

第 17 図　SK3517J 平面・断面図

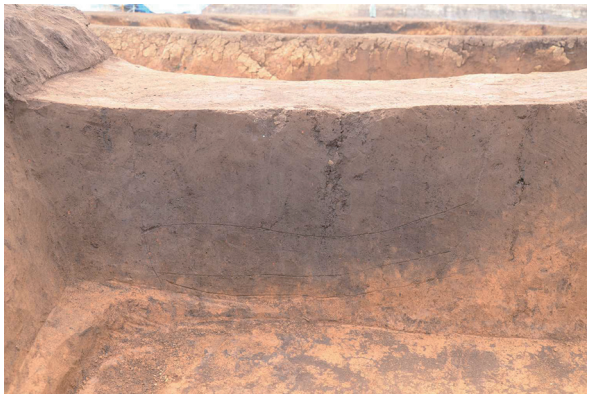


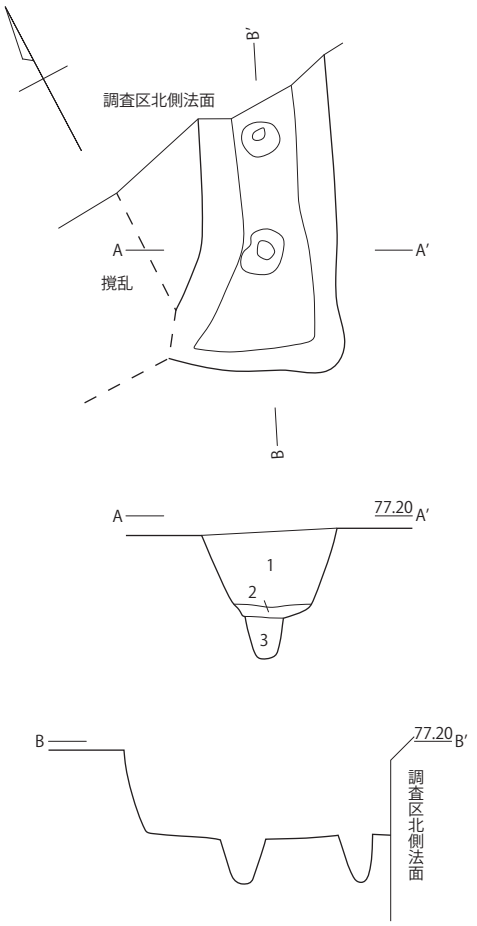
写真 37　SK3517J 断面（南から）

写真 38　SK3517J 断面（南から）

SK3518J 陥し穴（第 18 図、写真 39・40）

調査区北東部、グリッド 10B、11B で確認された。北側が調査区外となるが、平面形は隅丸長方形を呈すると思われる。規模は長さ 1.41m、幅 0.72m、深さは 0.69m を測る。長軸方向は N-24˚-E である。遺構断面は U 字形を呈する。下部構造として 2 基の小穴を伴う。小穴の平面形はおおむね円形で、直径 0.24 ～ 0.20m、土坑底面からの深さ 0.21 ～ 0.18m を測る。遺構西側側面がくの字に変形している。

覆土は、小穴以外は黒褐色土であり、一度に埋没した可能性が高いと思われる。平面形と下部に小穴を伴うことから陥し穴と判断した。遺物は出土していない。



1　10YR2/2 黒褐色土　締り：有り　粘性：やや弱い
φ 1mm 以下のローム粒が極少量混じる。φ 1mm 以下の焼土・炭化物粒を極少量含む。赤色スコリアを少量含む。

2　10YR2/2 黒褐色土　締り：有り　粘性：やや弱い
φ 1mm 以下のローム粒が少量混じる。赤色スコリアを多量に含む。

3　10YR3/3 暗褐色土　締り：有り　粘性：有り
φ 1mm 以下のローム粒が多量に混じる。φ 3 ～ 5mm 以下のロームブロックが少量混じる。赤色スコリアを少量含む。

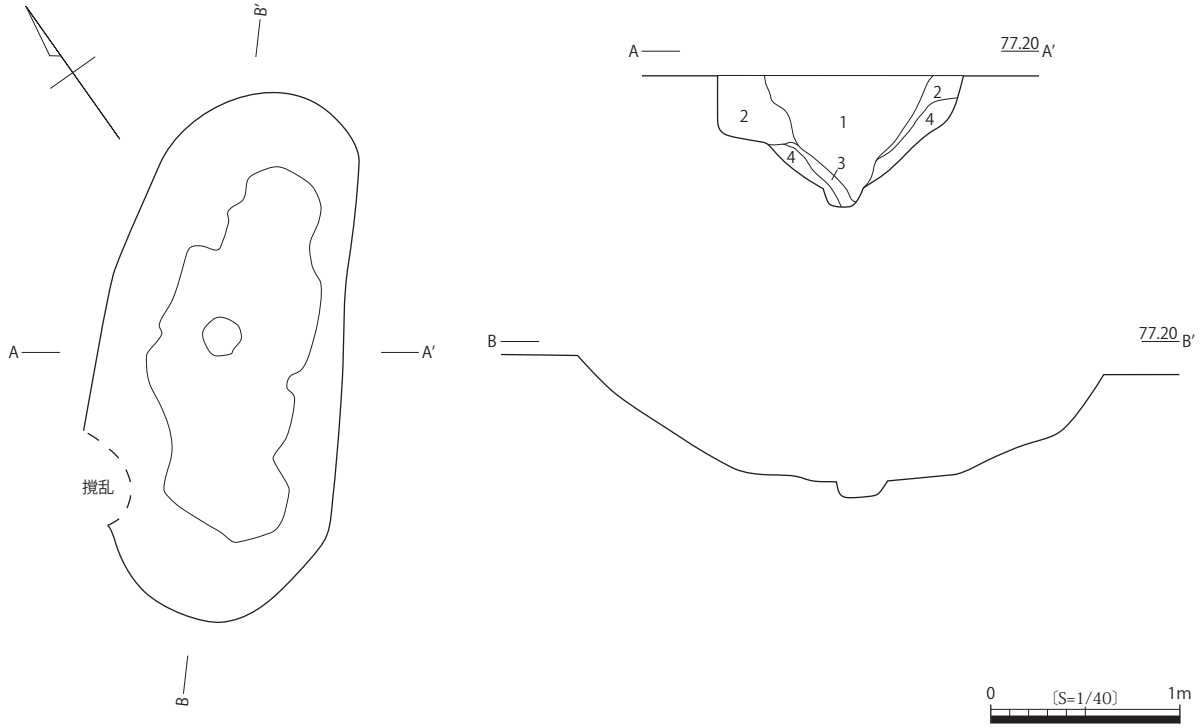
第 18 図　SK3518J 平面・断面図

写真 39　SK3518J 断面（南から）

写真 40　SK3518J 完掘（南から）

SK3519J 陥し穴（第 19 図、写真 41・42）

調査区北東部、グリッド 13F で確認された。平面形は長楕円形を呈する。規模は長さ 2.78m、幅 1.65m、深さ 0.70m を測る。長軸方向は N-44°-E である。遺構断面は不整形を呈する。下部構造として小穴 1 基を伴う。小穴の平面形は円形で、直径 0.21m、底面からの深さ 0.08m を測る。断面形は不整形だが、第 1 層は下部が急激に狭くなることを考えると、Y 字形とも考えられる。遺構側面崩落後に第 1 層を再掘削し、再利用した可能性が考えられる。以上のことから陥し穴と判断した。遺物は出土していない。



1　10YR3/2 黒褐色土　締り：有り　粘性：有り　φ 1mm 以下のローム粒が少量混じる。
　赤色スコリアを多量に含む。
2　10YR5/4 にぶい黄褐色土　締り：有り　粘性：有り　φ 1mm 以下のローム粒が多量に混じる。
　赤色スコリアを多量に含む。
3　10YR3/3 暗褐色土　締り：有り　粘性：有り　φ 1mm 以下のローム粒が多量に混じる。
　赤色スコリアを少量含む。
4　10YR6/8 明黄褐色　締り：強い　粘性：強い　第 1 層の黒褐色土が少量混じる。
　赤色スコリアを少量含む。

第 19 図　SK3519J 平面・断面図

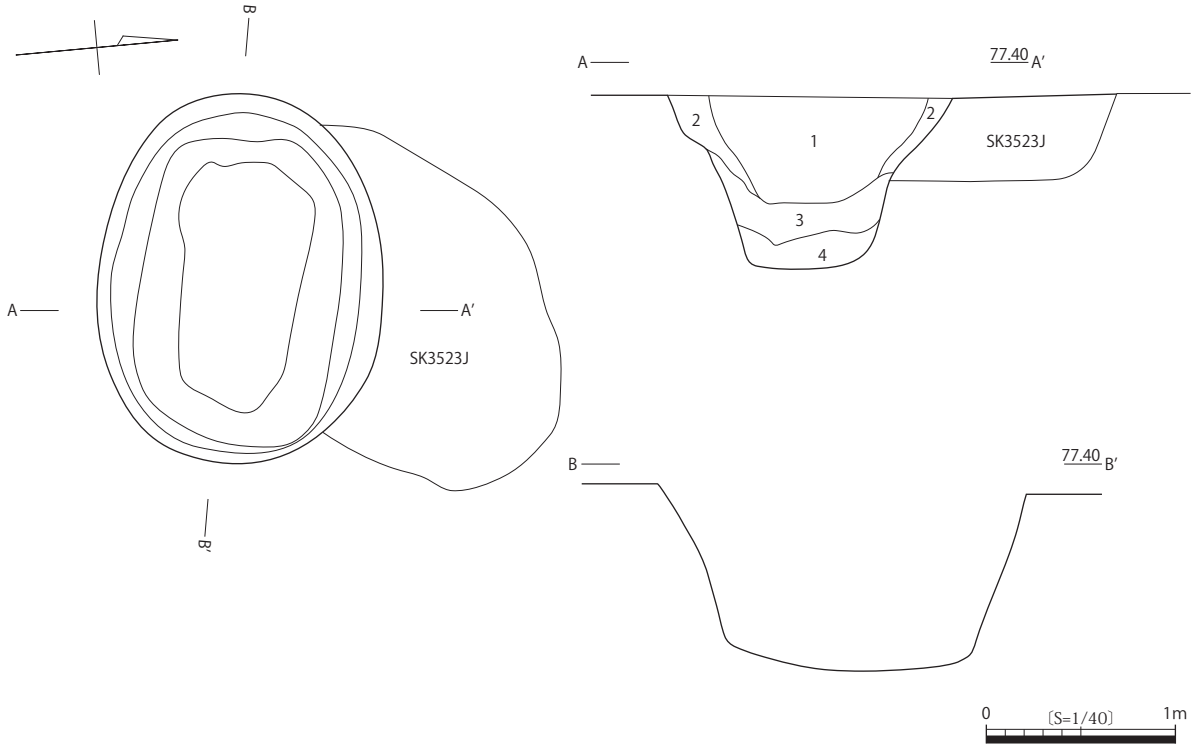
写真 41　SK3519J 断面（南西から）

写真 42　SK3519J 完掘（南西から）

SK3520J 陥し穴（第 20 図、写真 43・44）

調査区西部、グリッド 4P、5P で確認された。平面形は楕円形を呈する。規模は長さ 1.96m、幅 1.50m、深さ 0.91m を測る。長軸方向は N-80°-W である。遺構断面は U 字形を呈する。北側で SK3523J を切る。長軸壁は底面からやや垂直に立ち上がり、短軸壁は底面からやや垂直に立ち上がり、上部で緩やかに外湾する。

遺構側面から周辺の土である第 2 層が流入し、その後第 1 層が流入したと考えられる。この埋没過程は SK3513J、SK3515J、SK3519J、SK3512J、SK3522J と同様と考えられる。平面形と断面形から陥し穴と判断した。遺物は出土していない。



1　10YR3/2 黒褐色土　締り：有り　粘性：有り　φ 1mm 以下のローム粒が少量混じる。
　φ 1mm 以下の炭化物粒を少量含む。赤色スコリアを多量に含む。
2　10YR5/4 にぶい黄褐色土　締り：有り　粘性：有り　φ 1mm 以下のローム粒が多量に混じる。
　赤色スコリアを多量に含む。
3　10YR3/3 暗褐色土　締り：有り　粘性：有り　φ 1mm 以下のローム粒が多量に混じる。
　赤色スコリアを少量含む。
4　10YR3/3 暗褐色土　締り：有り　粘性：有り　φ 1mm 以下のローム粒が少量混じる。
　赤色スコリアを少量含む。

第 20 図　SK3520J 平面・断面図

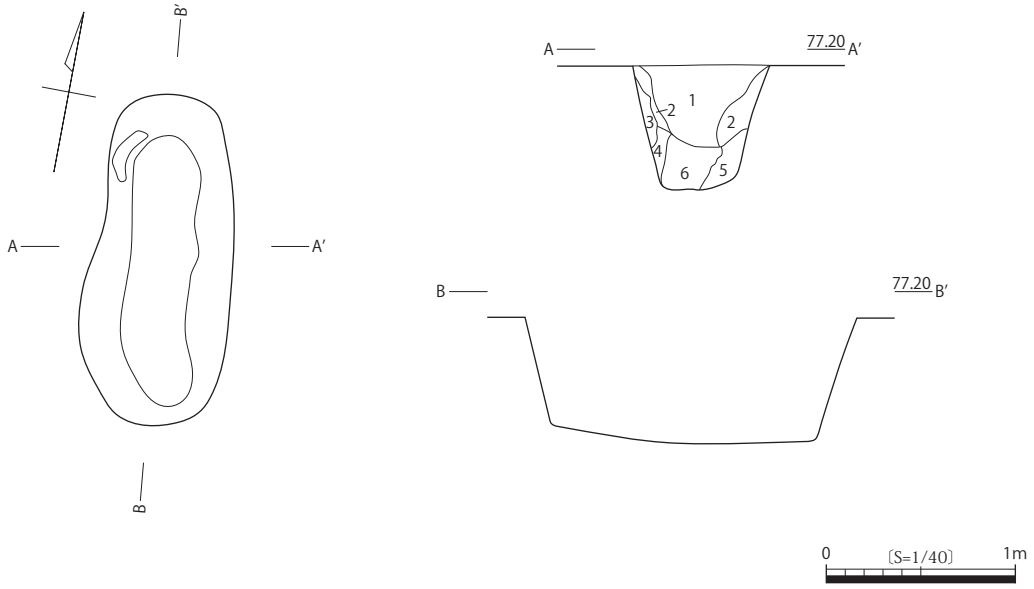
写真 43　SK3520J 断面（南東から）

写真 44　SK3520J 完掘（南東から）

SK3521J 陥し穴（第 21 図、写真 45・46）

調査区中央部やや南、グリッド 6P で確認された。平面形は長楕円形を呈する。規模は長さ 1.76m、幅 0.75m、深さ 0.66m を測る。長軸方向は N-5˚-W である。遺構断面は U 字形を呈する。長軸壁、短軸壁ともに底面からほぼ垂直に立ち上がる。

覆土は第 1 層が褐灰色土で、SK3522J の陥し穴と似ている。平面形と断面形から陥し穴と判断した。遺物は出土していない。



1　10YR4/1 褐灰色土　締り：有り　粘性：有り　φ 1mm 以下のローム粒が多量に混じる。
　赤色スコリアを少量含む。
2　10YR5/4 にぶい黄褐色土　締り：弱い　粘性：弱い　φ 1mm 以下のローム粒が多量に混じる。
　第 1 層の褐灰色土が斑状に混じる。赤色スコリアを多量に含む。
3　10YR6/6 明黄褐色土　締り：弱い　粘性：強い　赤色スコリアを少量含む。風化したローム層と思われる。
4　10YR6/8 明黄褐色土　締り：強い　粘性：強い　赤色スコリアを少量含む。崩落したローム層と思われる。
5　10YR5/4 にぶい黄褐色土　締り：有り　粘性：有り　φ 1mm 以下のローム粒が多量に混じる。
　φ 3 ～ 5mm 以下のロームブロックが少量混じる。赤色スコリアを少量含む。
6　10YR4/3 にぶい黄褐色土　締り：有り　粘性：有り　φ 1mm 以下のローム粒が多量に混じる。
　φ 3 ～ 5mm 以下のロームブロックが少量混じる。赤色スコリアを少量含む。

第 21 図　SK3521J 平面・断面図

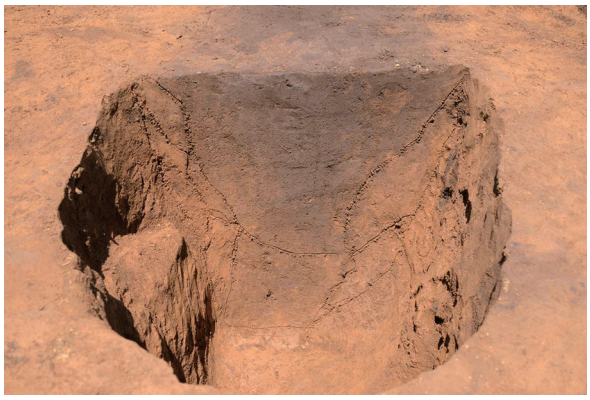


写真 45　SK3521J 断面（南から）

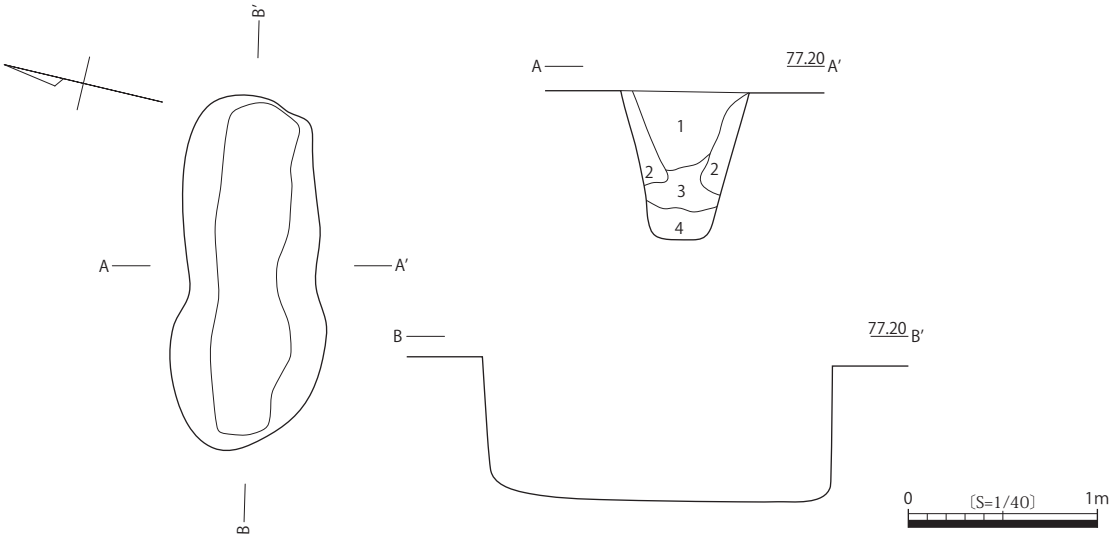
写真 46　SK3521J 完掘（南から）

SK3522J 陥し穴（第 22 図、写真 47・48）

調査区東部、グリッド 10L で確認された。平面形は長楕円形を呈する。規模は長さ 1.86m、幅 0.68m、深さ 0.77m を測る。長軸方向は N-79°-E である。遺構断面は U 字形を呈する。長軸壁は底面から垂直に立ち上がり、短軸壁は底面から垂直に立ち上がり、上部は緩やかに外湾する。

覆土の第 1 層は褐灰色土で SK3521J と似ている。第 3 層は袋状に堆積している。第 1・2 層と第 3・4 層の埋没過程が異なるため、埋没後に再掘削を行い再利用した可能性がある。

平面形と断面形から陥し穴と判断した。遺物は出土していない。



1　10YR4/1 褐灰色土　締り：有り　粘性：有り　φ 1mm 以下のローム粒が多量に混じる。
　赤色スコリアを少量含む。
2　10YR6/6 明黄褐色土　締り：有り　粘性：強い　φ 3 ～ 5mm 以下のロームブロックが多量に混じる。
　第 1 層の褐灰色土が多量に混じる。赤色スコリアを多量に含む。黒色スコリアを少量含む。
3　10YR4/2 灰黄褐色土　締り：弱い　粘性：弱い　φ 1mm 以下のローム粒が多量に混じる。
　赤色スコリア・黒色スコリアを多量に含む。
4　10YR3/2 黒褐色土　締り：強い　粘性：強い　φ 1mm 以下のローム粒が少量混じる。
　φ 3 ～ 5mm 以下のロームブロックが多量に混じる。赤色スコリア・黒色スコリアを少量含む。

第 22 図　SK3522J 平面・断面図

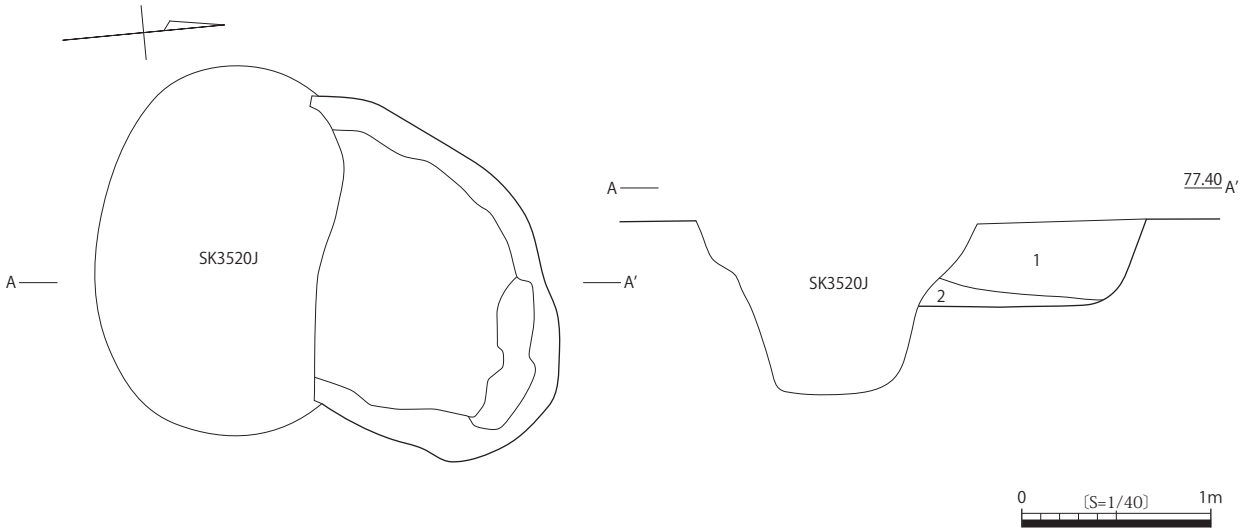
写真 47　SK3522J 断面（南西から）

写真 48　SK3522J 完掘（南西から）

SK3523J（第 23 図、写真 49・50）

調査区西部、グリッド 4P、5P で確認された。平面形は楕円形を呈する。規模は長さ 1.69m、幅 1.21m、深さ 0.46m を測る。長軸方向は N-85˚-W である。遺構断面は皿形を呈する。南側を SK3520J の陥し穴によって切られる。長軸壁はやや垂直に立ち上がる。

覆土は、褐灰色土であり均一であるため、一度に埋没した可能性が高い。遺物は出土していない。



1　10YR4/1 褐灰色土　締り：有り　粘性：有り　φ 1mm 以下のローム粒が少量に混じる。
　赤色スコリアを少量含む。黒色スコリアを多量に含む。
2　10YR5/6 黄褐色土　締り：強い　粘性：強い　φ 1mm 以下のローム粒が多量に混じる。
　第 1 層の褐灰色土が少量混じる。赤色スコリアを少量含む。

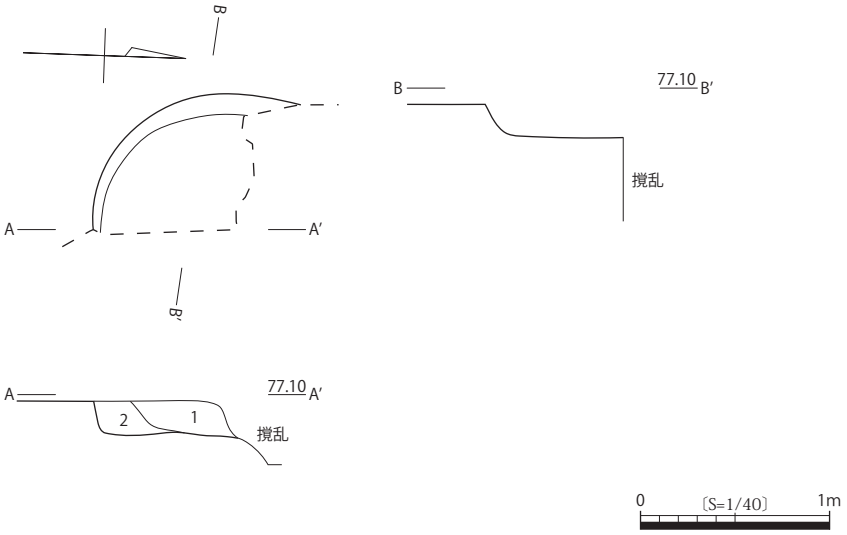
第 23 図　SK3523J 平面・断面図

写真 49　SK3523J 断面（南東から）

写真 50　SK3523J 完掘（南東から）

SK3508（第 24 図、写真 51・52）

調査区南部、グリッド 9U、9V で確認された。平面形は楕円形を呈すると思われる。規模は長さ 0.74m、幅 0.69m、深さ 0.19m を測る。長軸方向は N-4°-W である。遺構断面は皿形を呈すると思われる。 遺物は出土していない。



1　10YR4/4 褐色土　締り：やや有り　粘性：やや有り　φ 1mm 以下のローム粒が中量混じる。
　φ 1mm 以下の焼土・炭化物粒を少量含む。赤色スコリアを少量含む。
2　10YR4/3 にぶい黄褐色土　締り：やや有り　粘性：やや有り　φ 1mm 以下のローム粒が多量に混じる。
　φ 1mm 以下の焼土・炭化物粒を少量含む。赤色スコリアを少量含む。

第 24 図　SK3508 平面・断面図

写真 51　SK3508 断面（東から）

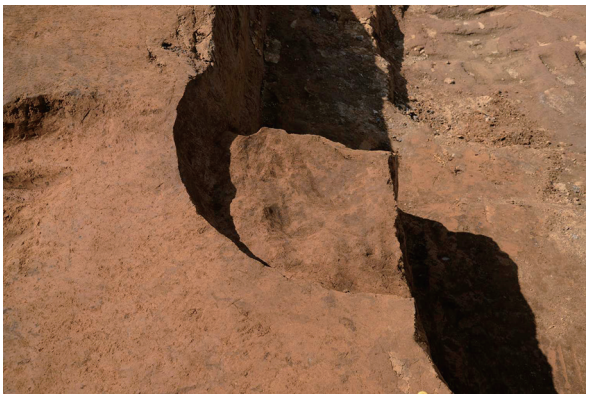
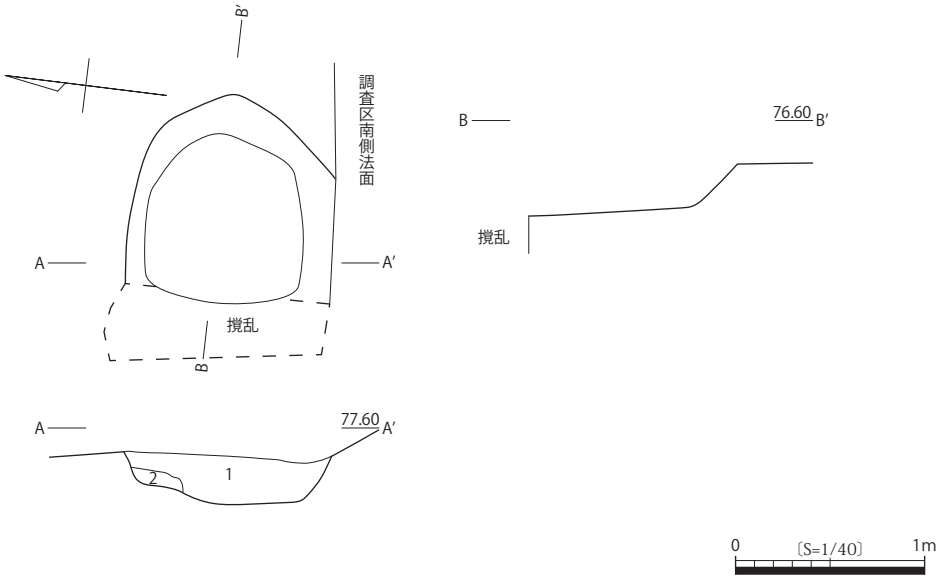


写真 52　SK3508 完掘（南から）

SK3509（第 25 図、写真 53・54）

調査区南部、グリッド 3X、4X で確認された。平面形は楕円形を呈すると思われる。規模は長さ 1.10m、幅 1.03m、深さ 0.27m を測る。長軸方向は N-90˚-E(W) である。遺構断面は皿形を呈する。遺物は出土していない。



1　10YR4/4 褐色土　締り：やや有り　粘性：やや有り　φ 1mm 以下のローム粒が少量混じる。
　φ 1mm 以下の炭化物粒を少量含む。赤色スコリアを少量含む。
2　10YR4/3 にぶい黄褐色土　締り：やや有り　粘性：やや有り　φ 1mm 以下のローム粒が多量に混じる。
　φ 1mm 以下の炭化物粒を少量含む。赤色スコリアを多量に含む。

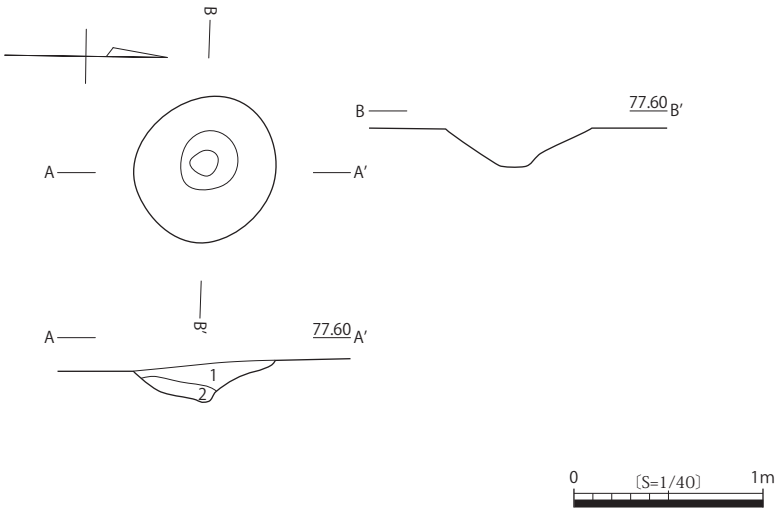
第 25 図　SK3509 平面・断面図

写真 53　SK3509 断面（西から）

写真 54　SK3509 完掘（東から）

SK3510（第 26 図、写真 55・56）

調査区南部、グリッド 3W、4W で確認された。平面形は円形を呈する。規模は長さ 0.77m、幅 0.75m、深さ 0.22m を測る。長軸方向は N-89°-W である。遺構断面は V 字形を呈する。遺物は出土していない。



1　10YR4/4 褐色土　締り：やや有り　粘性：やや有り　φ 1mm 以下のローム粒が少量混じる。
　φ 1mm 以下の焼土・炭化物粒を少量含む。赤色スコリアを少量含む。
2　10YR4/4 褐色土　締り：やや有り　粘性：やや有り　φ 1mm 以下のローム粒が多量に混じる。
　φ 3 ～ 5mm 以下のロームブロックが少量混じる。赤色スコリアを少量含む。

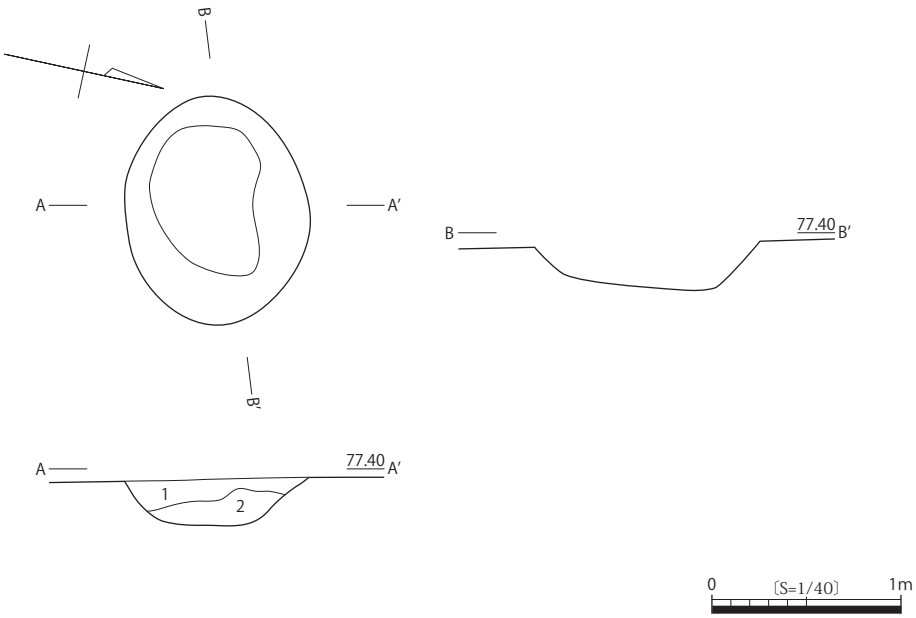
第 26 図　SK3510 平面・断面図

写真 55　SK3510 断面（東から）

写真 56　SK3510 完掘（東から）

SK3511（第 27 図、写真 57・58）

調査区南部、グリッド 5W で確認された。平面形は楕円形を呈する。規模は長さ 1.20m、幅 0.97m、深さ 0.24m を測る。長軸方向は N-77°-E である。遺構断面は皿形を呈する。 遺物は出土していない。



1　10YR4/4 褐色土　締り：やや有り　粘性：やや有り　φ 1mm 以下のローム粒が少量混じる。
　φ 1mm 以下の炭化物粒を少量含む。赤色スコリアを少量含む。
2　10YR4/4 褐色土　締り：やや有り　粘性：やや有り　φ 1mm 以下のローム粒が多量に混じる。
　φ 3 ～ 5mm 以下のロームブロックが少量混じる。赤色スコリアを少量含む。

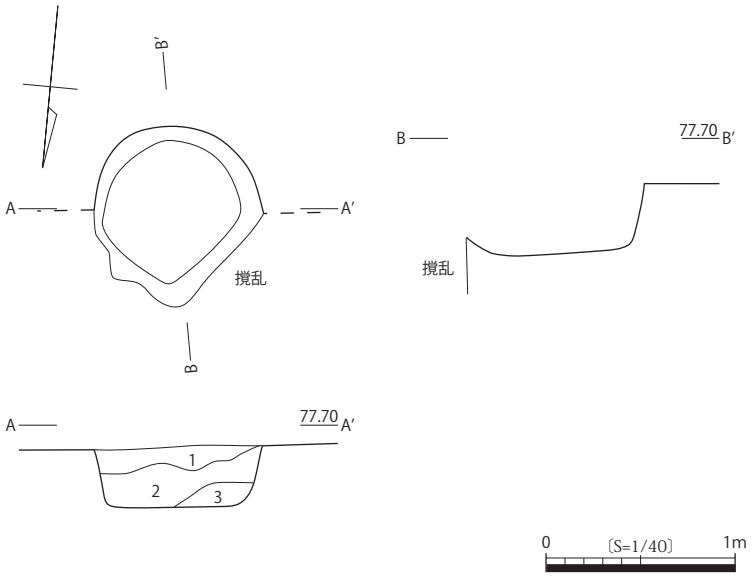
第 27 図　SK3511 平面・断面図

写真 57　SK3511 断面（東から）

写真 58　SK3511 完掘（東から）

SK3512（第 28 図、写真 59・60）

調査区南部、グリッド 8W、8X で確認された。平面形は円形を呈すると思われる。規模は長さ 0.95m、幅 0.89m、深さ 0.32m を測る。長軸方向は N-4°-W である。遺構断面は箱形を呈する。 遺物は出土していない。



1　10YR3/1 黒褐色土　締り：やや有り　粘性：やや有り　φ 1mm 以下のローム粒が少量混じる。
　φ 1mm 以下の焼土・炭化物粒を少量含む。赤色スコリアを少量含む。
2　10YR3/2 黒褐色土　締り：やや有り　粘性：やや有り　φ 1mm 以下のローム粒が少量混じる。
　φ 1mm 以下の焼土・炭化物粒を少量含む。赤色スコリアを少量含む。
3　10YR4/3 にぶい黄褐色土　締り：やや有り　粘性：有り　φ 1mm 以下のローム粒が多量に混じる。
　φ 1mm 以下の焼土・炭化物粒を少量含む。赤色スコリアを中量含む。

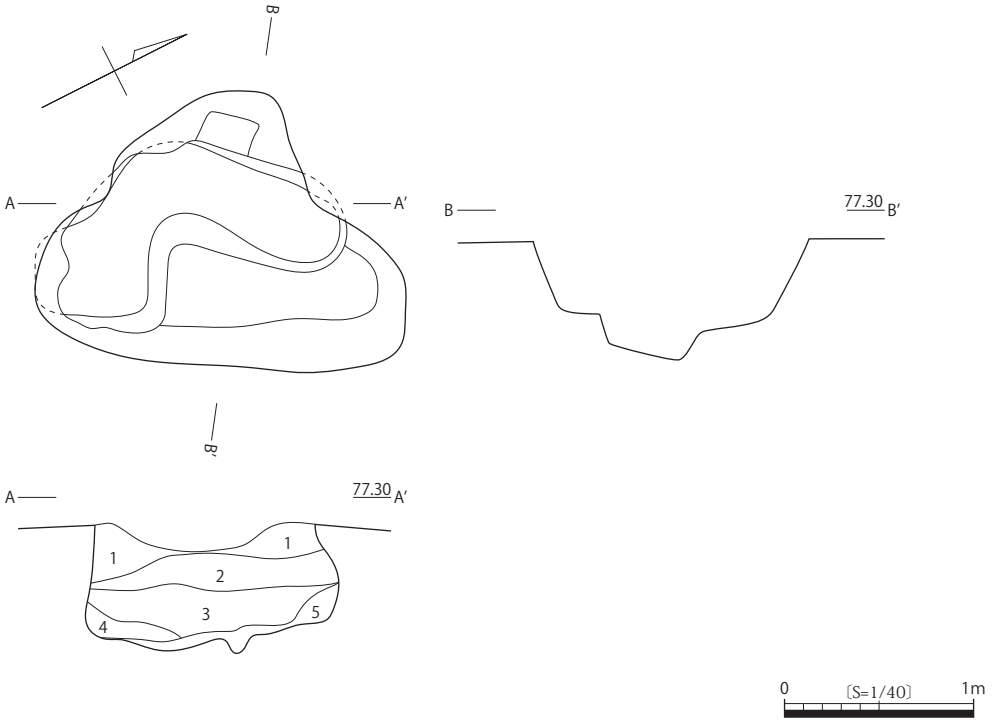
第 28 図　SK3512 平面・断面図

写真 59　SK3512 断面（北から）

写真 60　SK3512 完掘（北から）

SK3516（第 29 図、写真 61・62）

調査区東、グリッド 9K、10K で確認された。平面形は不整形を呈する。規模は長さ 1.96m、幅 1.47m、深さ 0.67m を測る。長軸方向は N-35˚-E である。遺構断面は袋形を呈する。第 1 層はビニール片などが出土している鉄道中央学園時代の堆積土である。 遺物は出土していない。



1　鉄道中央学園時代の堆積土
2　10YR3/1 黒褐色土　締り：やや弱い　粘性：やや弱い　φ 1mm 以下のローム粒が少量混じる。
　φ 1mm 以下の炭化物粒を少量含む。赤色スコリアを少量含む。
3　10YR4/1 褐灰色土　締り：有り　粘性：有り　φ 1mm 以下のローム粒が多量に混じる。
　φ 3 ～ 5mm 以下のロームブロックが多量に混じる。黒褐色土が少量混じる。赤色スコリアを少量含む。
4　10YR2/2 黒褐色土　締り：有り　粘性：有り　φ 1mm 以下のローム粒が多量に混じる。
5　10YR4/3 にぶい黄褐色土　締り：有り　粘性：強い　黒褐色土が少量混じる。赤色スコリアを少量含む。ローム主体土。

第 29 図　SK3516 平面・断面図

写真 61　SK3516 断面（東から）

写真 62　SK3516 完掘（東から）

②性格不明遺構

SX373（第 30 図、写真 63 ～ 66）

調査区北部、グリッド 6I、7I、7J で確認された。平面形は十字形を呈する。規模は、長さ 6.89m、幅 6.89m、深さ 1.55m を測る。長軸方向は N-8°-W である。遺構断面は天井部が湾曲する逆 U 字形を呈する。 床面付近は立川ローム層第Ⅵ～Ⅶ層まで達している。横穴状の室部が東西南北の 4 方向に展開しており、北と南の室部の主軸は N-8°-W に触れ、東と西の室部はこれらと 90°直交する。北室部は幅 1.2m、奥行き 2.9m の平面長方形状を呈し、室内部の面積は 3.48㎡を有する。天井高は中心部が 1.2m、奥壁際は 1.1m とやや先細りで、床面は平坦だが、中心から奥壁に向かって緩やかに上昇している。南、東、西の室部も北の室部と同様な規模で、形状もおおむね同様である。天井部は奥際以外は撹乱を受けており残存していない。室内部の各所には掘削工具痕が明瞭に残っている。遺物は出土していない。

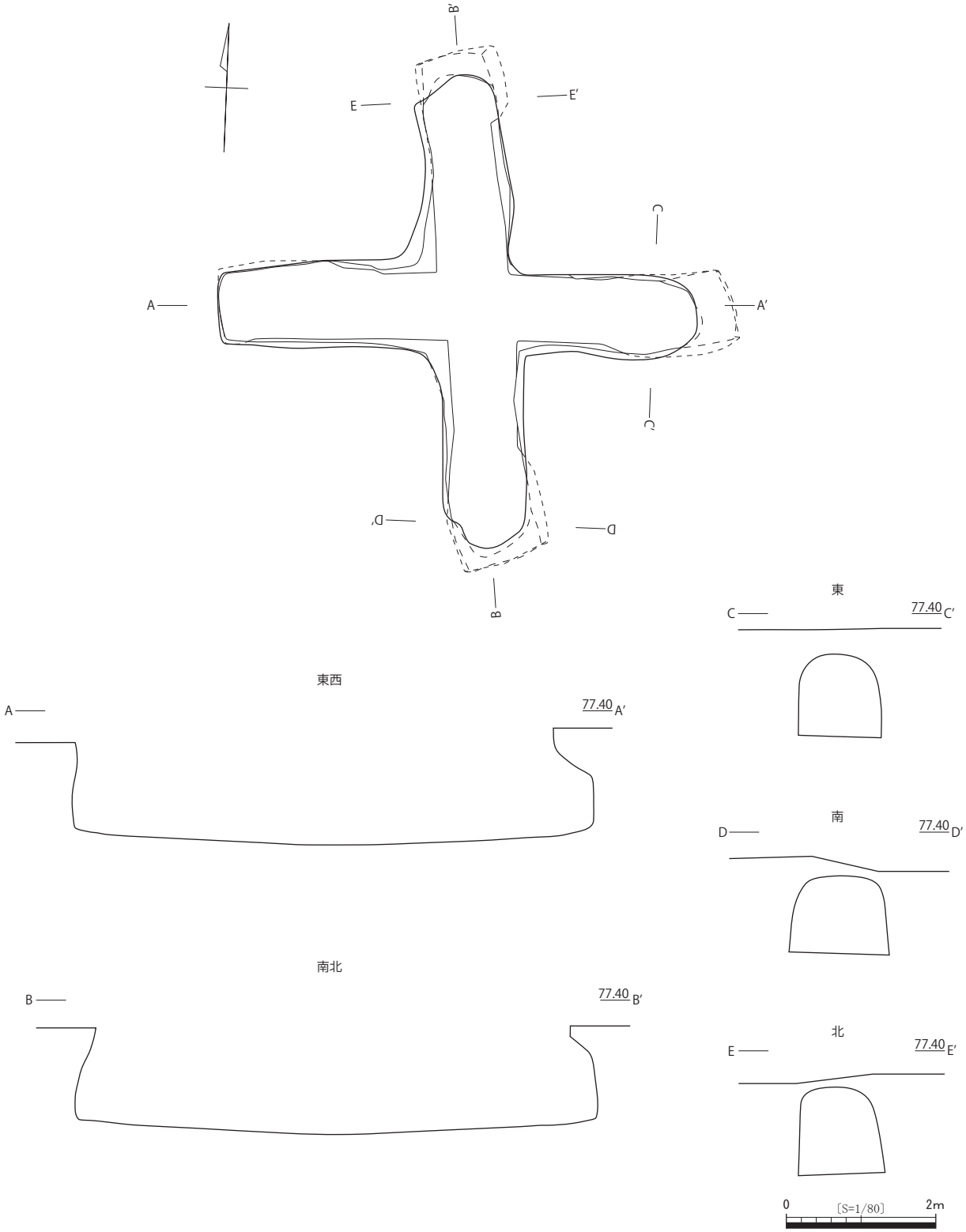
防空壕の可能性もあるが、地上からの階段が無いこと、平面形が十字形であることからうどムロと判断した。周辺の防空壕、うどムロに関しては本章（３）にて後述する。

写真 63　SX373 北室部（南から）

写真 64　SX373 完掘（上が北）

写真 65　SX373 北室部天井（南から）

写真 66　SX373 東室部（西から）



第 30 図　SX373 平面・断面図

③溝

SD443（第 31 図、写真 67・68）

調査区中央やや南のグリッド 6Q、6R、7Q、7R で確認された。SD444 の南に位置し、南側を撹乱により消失している。平面形は溝形を呈する。規模は長さ 2.64m、幅 0.49m、深さ 0.16m を測る。長軸方向は N-0°-E(W) である。遺構断面は皿形を呈する。SD444 の延長線上にあることから、SD444 と同一の溝状遺構の可能性がある。遺物は出土しなかった。

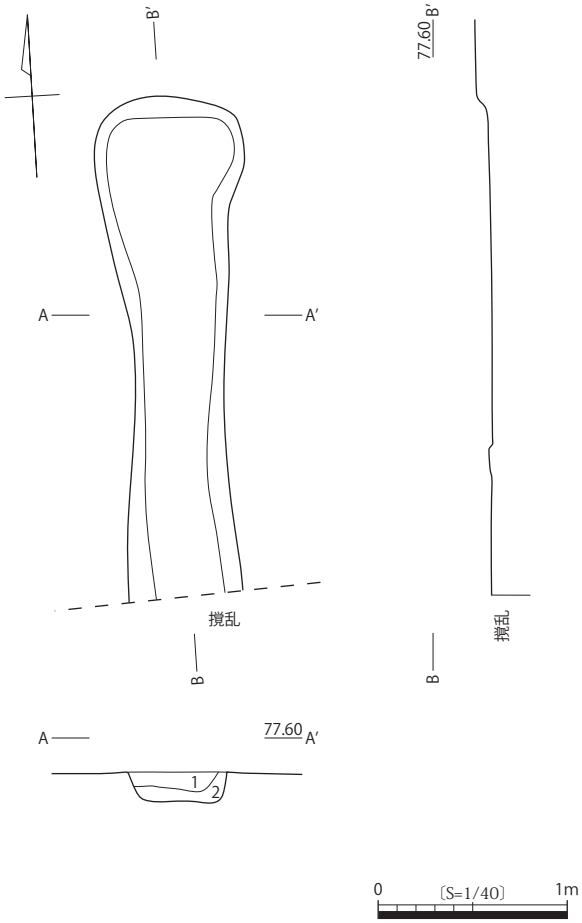


写真 67　SD443 断面（南から）

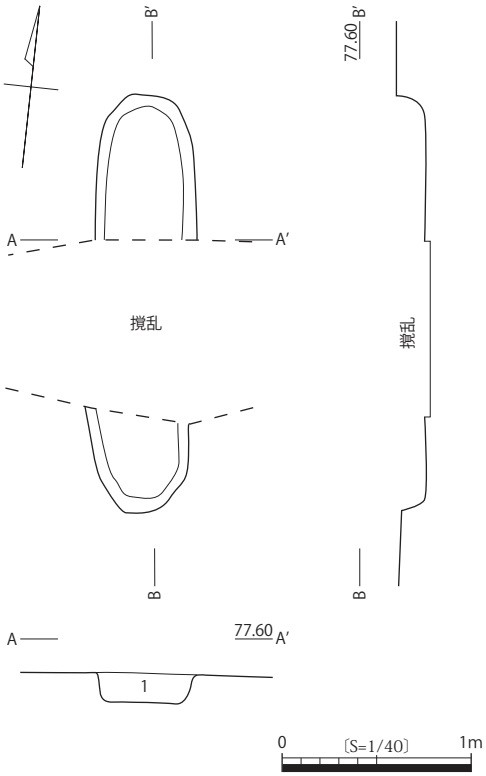
写真 68　SD443 完掘（南から）

1　10YR4/4 褐色土　締り：やや有り　粘性：やや有り
　φ 1mm 以下のローム粒が少量混じる。
　φ 1mm 以下の焼土・炭化物粒を少量含む。
　赤色スコリアを少量含む。
2　10YR4/3 にぶい黄褐色土　締り：やや有り　粘性：やや有り
　φ 1mm 以下のローム粒が多量に混じる。
　赤色スコリアを少量含む。

第 31 図　SD443 平面・断面図

SD444（第 32 図、写真 69・70）

調査区中央のやや南のグリッド 6Q で確認された。SD443 の北側に位置する。平面形は溝形を呈する。規模は長さ 1.27m、幅 0.52m、深さ 0.16m を測る。長軸方向は N-4°-W である。遺構断面は皿形を呈する。SD443 の延長線上にあることから、SD443 と同一の溝状遺構の可能性がある。遺物は出土しなかった。



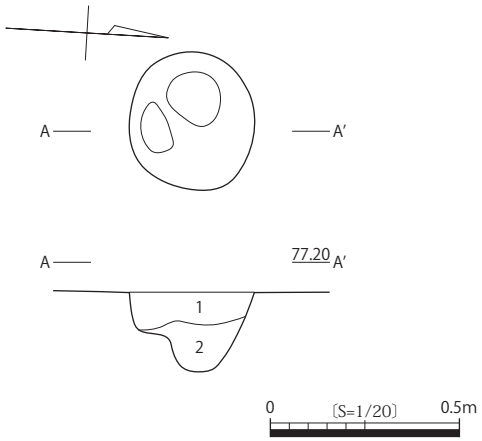
1　10YR4/4 褐色土　締り：やや有り　粘性：やや有り
　φ 1mm 以下のローム粒が少量混じる。
　φ 1mm 以下の炭化物粒を少量含む。
　赤色スコリアを少量含む。

第 32 図　SD444 平面・断面図

写真 69　SD444 断面（南から）

写真 70　SD444 完掘（南から）

④小穴

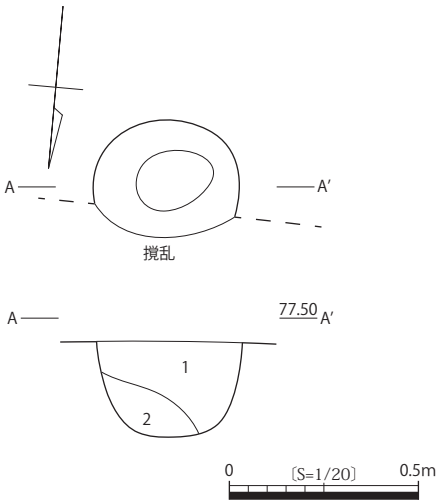


1　10YR4/4 褐色土　締り：やや有り　粘性：やや有り
　φ 1mm 以下のローム粒が少量混じる。
　φ 1mm 以下の焼土・炭化物粒を少量含む。
　赤色スコリアを少量含む。
2　10YR3/4 暗褐色土　締り：やや有り　粘性：やや有り
　φ 1mm 以下のローム粒が少量混じる。
　赤色スコリアを少量含む。

第 33 図　P-1 平面・断面図

写真 71　P-1 断面（東から）

写真 72　P-1 完掘（東から）

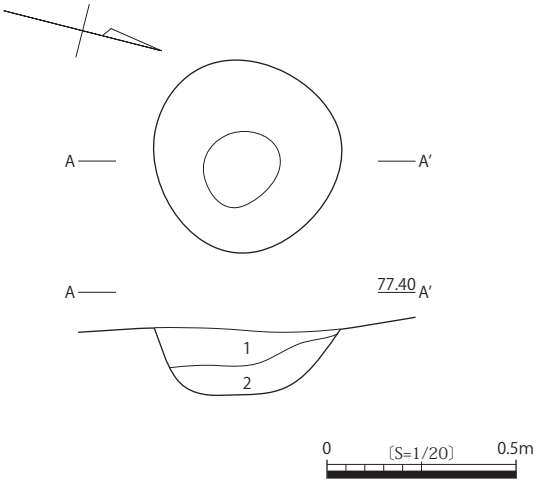


1　10YR4/4 褐色土　締り：やや有り　粘性：やや有り
　φ 1mm 以下のローム粒が少量混じる。
　φ 1mm 以下の焼土・炭化物粒を少量含む。
　赤色スコリアを少量含む。
2　10YR5/4 にぶい黄褐色土　締り：やや有り　粘性：やや有り
　φ 1mm 以下のローム粒が多量に混じる。
　赤色スコリアを少量含む。

第 34 図　P-2 平面・断面図

写真 73　P-2 断面（北から）

写真 74　P-2 完掘（北から）

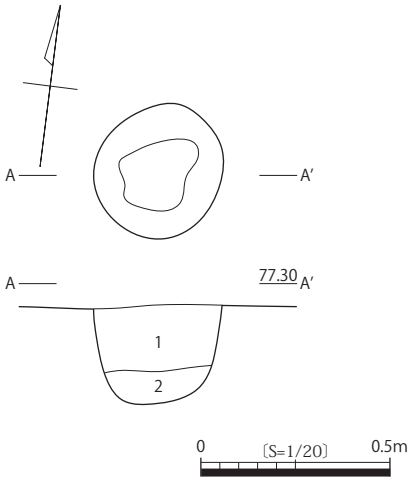


1　10YR4/4 褐色土　締り：やや有り　粘性：やや有り
　φ 1mm 以下のローム粒が少量混じる。
　φ 1mm 以下の焼土・炭化物粒を少量含む。
　赤色スコリアを少量含む。
2　10YR3/4 暗褐色土　締り：やや有り　粘性：やや有り
　φ 1mm 以下のローム粒が少量混じる。
　赤色スコリアを少量含む。

第 35 図　P-3 平面・断面図

写真 75　P-3 断面（東から）

写真 76　P-3 完掘（東から）

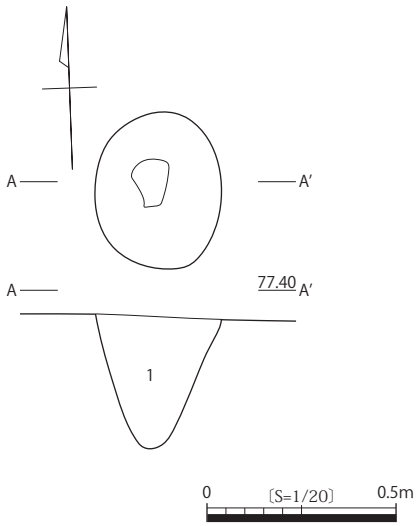


1　10YR4/4 褐色土　締り：やや有り　粘性：やや有り
　φ 1mm 以下のローム粒が少量混じる。
　φ 1mm 以下の炭化物粒を少量含む。
　赤色スコリアを少量含む。
2　10YR5/4 にぶい黄褐色土　締り：やや有り　粘性：やや有り
　φ 1mm 以下のローム粒が多量に混じる。
　赤色スコリアを少量含む。

第 36 図　P-4 平面・断面図

写真 77　P-4 断面（南から）

写真 78　P-4 完掘（南から）



1　10YR4/4 褐色土　締り：やや有り　粘性：やや有り
　φ 1mm 以下のローム粒が少量混じる。
　φ 1mm 以下の炭化物粒を少量含む。
　赤色スコリアを少量含む。

第 37 図　P-5 平面・断面図

写真 79　P-5 断面（南から）

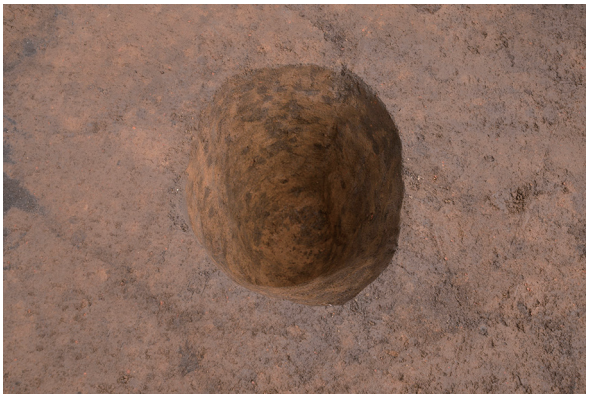
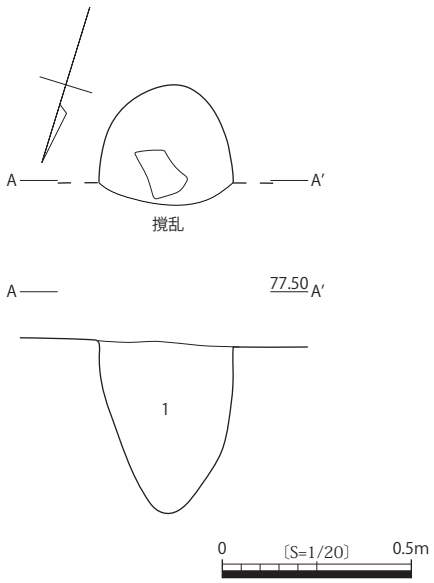


写真 80　P-5 完掘（南から）



1　10YR4/1 褐灰色土　締り：やや有り　粘性：やや有り
　φ 1mm 以下のローム粒が少量混じる。
　φ 3 ～ 10mm 以下のロームブロックが少量混る。
　φ 1mm 以下の炭化物粒を少量含む。

第 38 図　P-6 平面・断面図

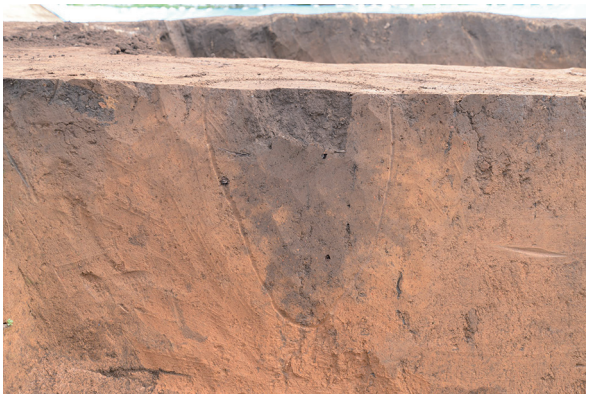
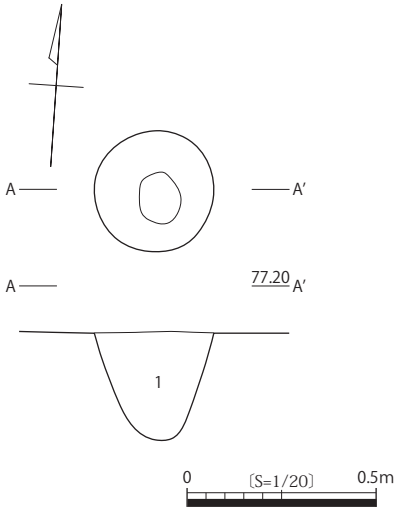


写真 81　P-6 断面（北から）

写真 82　P-6 完掘（北から）



1　10YR4/1 褐灰色土　締り：やや有り　粘性：やや有り
　φ 1mm 以下のローム粒が少量混じる。
　φ 5 ～ 10mm 以下のロームブロックが少量混じる。
　φ 1mm 以下の炭化物粒を少量含む。

第 39 図　P-7 平面・断面図

写真 83　P-7 断面（南から）

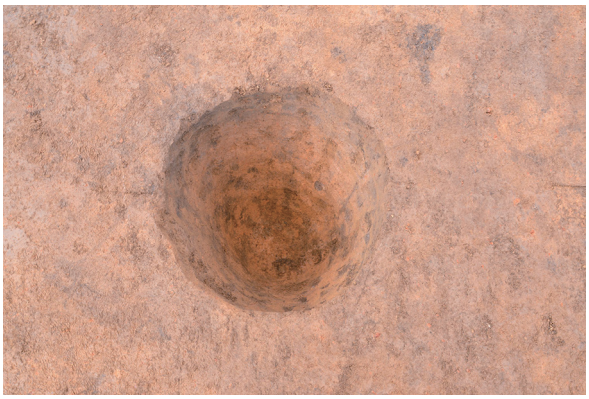
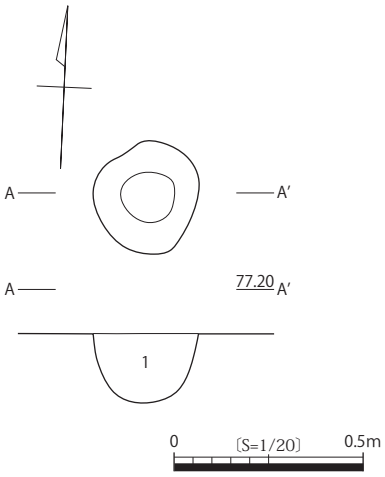


写真 84　P-7 完掘（南から）



1　10YR4/1 褐灰色土　締り：やや有り　粘性：やや有り
　φ 1mm 以下のローム粒が少量混じる。
　φ 3 ～ 5mm 以下のロームブロックが少量混じる。
　φ 1mm 以下の炭化物粒を少量含む。

第 40 図　P-8 平面・断面図

写真 85　P-8 断面（南から）

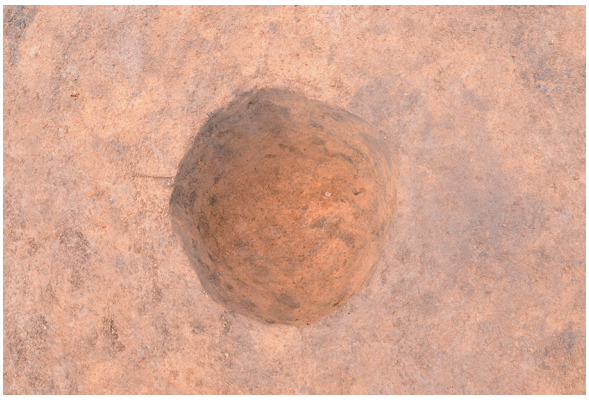
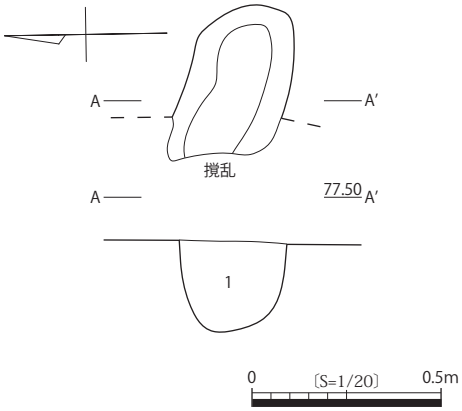


写真 86　P-8 完掘（南から）

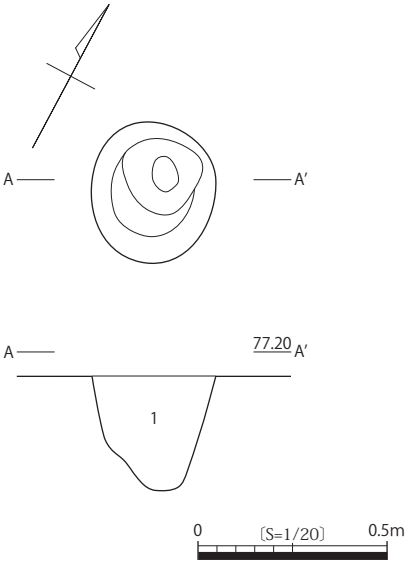


1　10YR4/4 褐色土　締り：やや有り　粘性：やや有り
　φ 1mm 以下のローム粒が少量混じる。
　φ 1mm 以下の炭化物粒を少量含む。
　赤色スコリアを少量含む。

第 41 図　P-9 平面・断面図

写真 87　P-9 断面（西から）

写真 88　P-9 完掘（西から）



1　10YR4/1 褐灰色土　締り：やや有り　粘性：やや有り
　φ 1mm 以下のローム粒が少量混じる。
　φ 1mm 以下の炭化物粒を少量含む。
　赤色スコリアを少量含む。

第 42 図　P-10 平面・断面図

写真 89　P-10 断面（南東から）

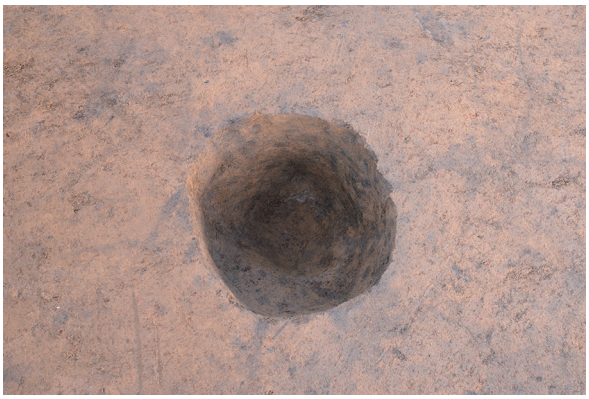
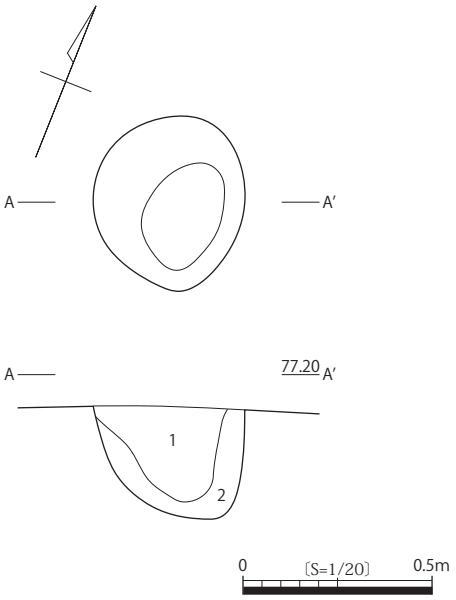


写真 90　P-10 完掘（南東から）

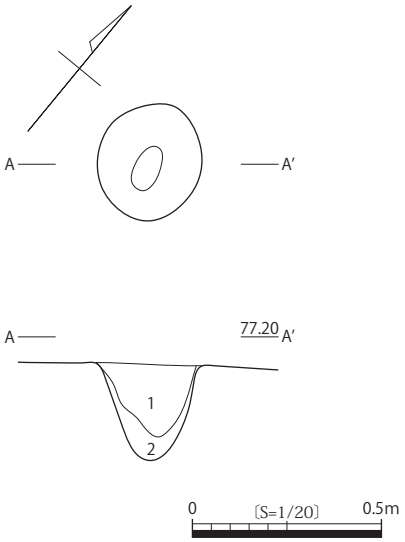


1　10YR4/1 褐灰色土　締り：やや有り　粘性：やや有り
　φ 1mm 以下のローム粒が少量混じる。
　φ 1mm 以下の炭化物粒を少量含む。
2　10YR5/4 にぶい黄褐色土　締り：やや有り　粘性：やや有り
　φ 1mm 以下のローム粒が少量混じる。
　φ 3 ～ 5mm 以下のロームブロックが少量混じる。

第 43 図　P-11 平面・断面図

写真 91　P-11 断面（南東から）

写真 92　P-11 完掘（南東から）

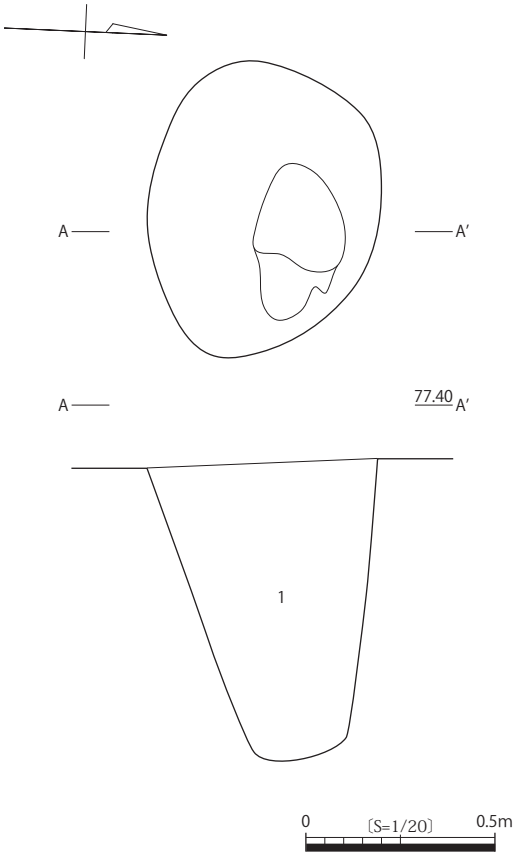


1　10YR4/4 褐色土　締り：やや有り　粘性：やや有り
　φ 1mm 以下のローム粒が少量混じる。
　φ 1mm 以下の炭化物粒を少量含む。
2　10YR5/4 にぶい黄褐色土　締り：やや有り　粘性：やや有り
　φ 1mm 以下のローム粒が多量に混じる。

第 44 図　P-12 平面・断面図

写真 93　P-12 断面（南東から）

写真 94　P-12 完掘（南東から）



1　10YR4/4 褐色土　締り：やや有り　粘性：やや有り
　φ 1mm 以下のローム粒が少量混じる。
　φ 1mm 以下の焼土・炭化物粒を少量含む。
　赤色スコリアを少量含む。

第 45 図　P-13 平面・断面図

写真 95　P-13 断面（東から）

写真 96　P-13 完掘（東から）

P-1（第 33 図、写真 71・72）

グリット 12W で確認された。規模は長さ 0.36m、幅 0.33m、深さ 0.21m を測る。長軸方向は N-85˚-E である。

P-2（第 34 図、写真 73・74）

グリット 3W で確認された。規模は長さ 0.38m、幅 0.31m、深さ 0.24m を測る。長軸方向は N-75˚-W である。

P-3（第 35 図、写真 75・76）

グリット 4X で確認された。規模は長さ 0.50m、幅 0.49m、深さ 0.17m を測る。長軸方向は N-76˚-E である。

P-4（第 36 図、写真 77・78）

グリット 8J、8K で確認された。規模は長さ 0.35m、幅 0.34m、深さ 0.26m を測る。長軸方向は N-7˚-W である。

P-5（第 37 図、写真 79・80）

グリット 2H で確認された。規模は長さ 0.41m、幅 0.33m、深さ 0.35m を測る。長軸方向は N-2˚-E である。

P-6（第 38 図、写真 81・82）

グリット 9P で確認された。規模は長さ 0.35m、幅 (0.31m)、深さ 0.45m を測る。長軸方向は N-16˚-W である。

P-7（第 39 図、写真 83・84）

グリット 10B で確認された。規模は長さ 0.32m、幅 0.31m、深さ 0.28m を測る。長軸方向は N-3˚-W である。

P-8（第 40 図、写真 85・86）

グリット 10B で確認された。規模は長さ 0.30m、幅 0.27m、深さ 0.18m を測る。長軸方向は N-3˚-W である。

P-9（第 41 図、写真 87・88）

グリット 9P で確認された。規模は長さ 0.40m、幅 0.27m、深さ 0.24m を測る。長軸方向は N-74˚-W である。

P-10（第 42 図、写真 89・90）

グリット 11O で確認された。規模は長さ 0.37m、幅 0.32m、深さ 0.30m を測る。長軸方向は N-28˚-W である。

P-11（第 43 図、写真 91・92）

グリット 8P、8Q で確認された。規模は長さ 0.46m、幅 0.39m、深さ 0.28m を測る。長軸方向は N-22˚-W である。

P-12（第 44 図、写真 93・94）

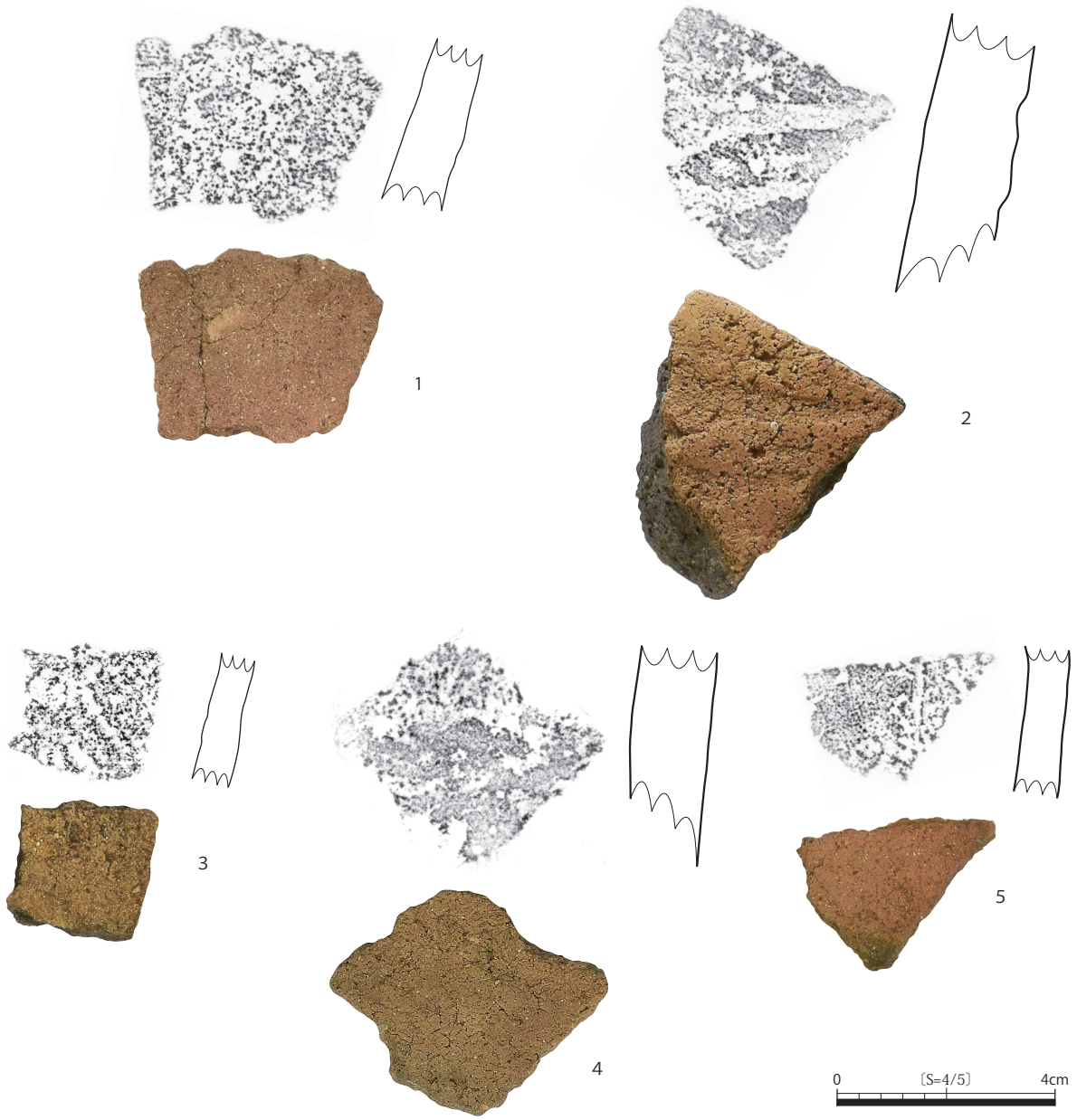
グリット 9Q で確認された。規模は長さ 0.31m、幅 0.27m、深さ 0.26m を測る。長軸方向は N-10˚-W である。

P-13（第 45 図、写真 95・96）

グリット 3O で確認された。規模は長さ 0.76m、幅 0.61m、深さ 0.79m を測る。長軸方向は N-87˚-E である。

（2）遺物

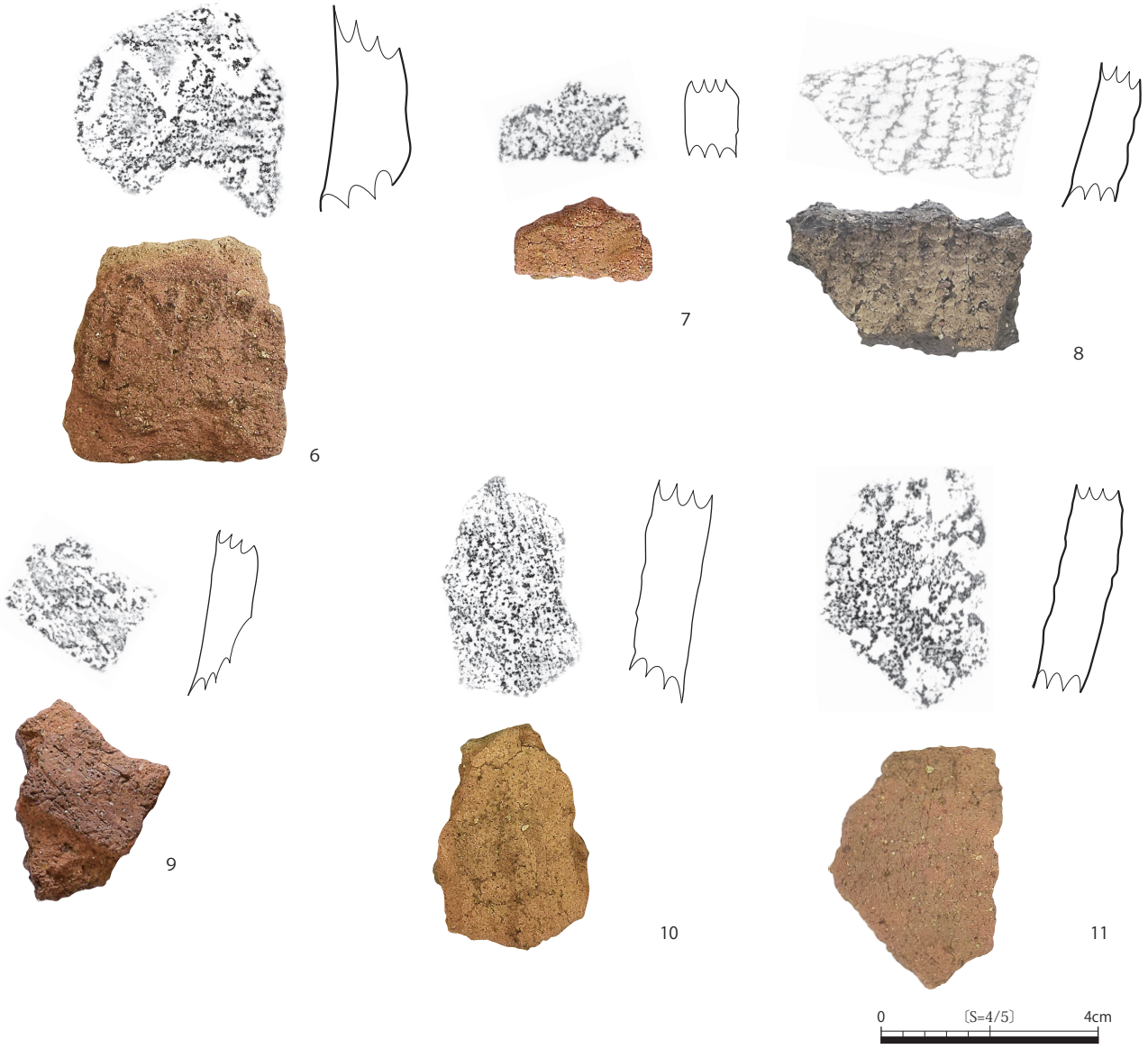
①土器



第 46 図　遺構外出土縄文土器 1

第 4 表　遺構外出土縄文土器観察表 1

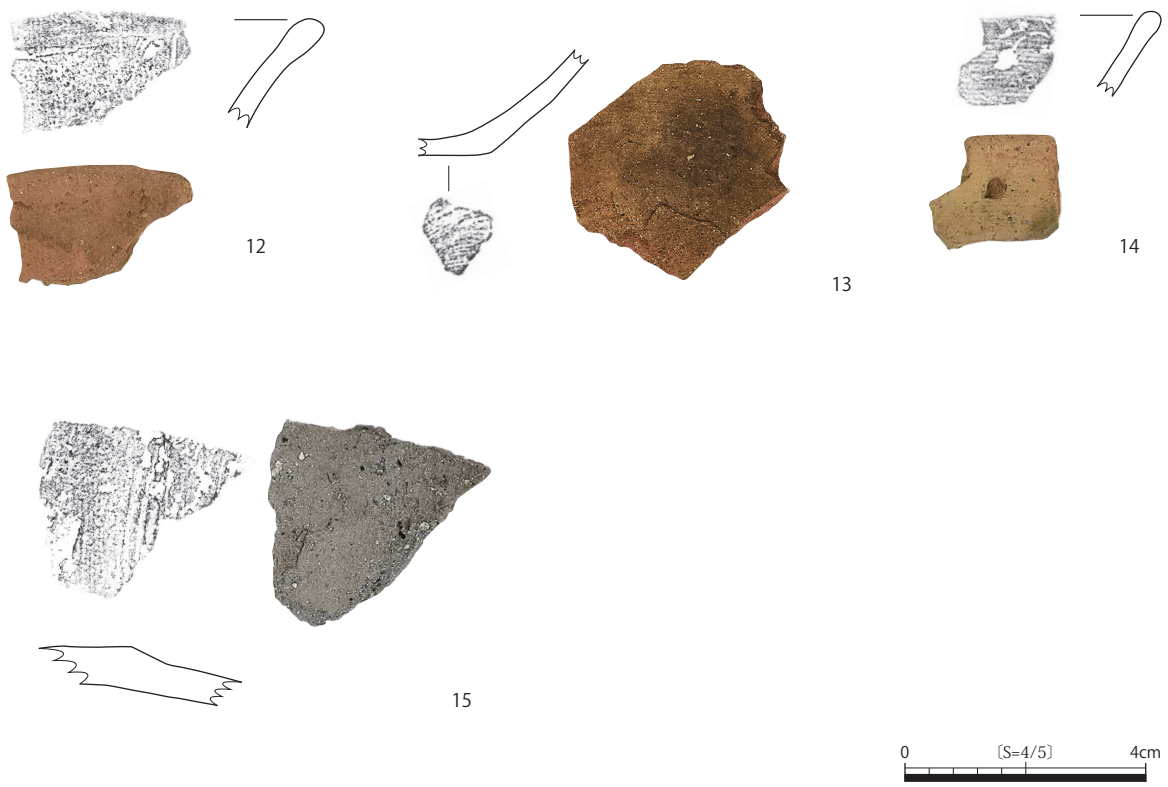
遺物番号 出土位置	型式	種別器種	出土層位	法量 (mm)			重量 (g)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
				口径	器高	底径				
1 7T	—	深鉢	I 層	44	30	10	18.9	胴部片。	無文。	赤褐色。胎土はやや粗い。長石、石英を含む。 焼成はやや不良。早期前半終末～早期中葉。
2 4N	—	不明	I 層	40	40	15	35.2	胴部片。	—	黄褐色。胎土は密。細砂粒、長石を含む。焼成は良好。中期か。
3 8T	—	深鉢	I 層	20	24	6	5.7	胴部片。	縄文 LR 縦位回転。	黄褐色。胎土は密。細砂粒、長石を含む。焼成は良好。中期初頭か。
4 3Q	—	深鉢	I 層	50	40	14	22.8	胴部片。	無文。	黄褐色。胎土は密。細砂粒、長石を含む。焼成は良好。中期。
5 3Q	—	深鉢	I 層	33	25	8	7.3	胴部片。	縦方向に沈線。	赤褐色。胎土は密。細砂粒、長石を含む。焼成は良好。中期初頭。



第 47 図　遺構外出土縄文土器 2

第 5 表　遺構外出土縄文土器観察表 2

遺物番号 出土位置	型式	種別器種	出土層位	法量 (mm)			重量 (g)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
				口径	器高	底径				
6 5W	—	深鉢	I 層	40	40	15	31.3	胴部片。	鋸歯状の沈線文。	赤褐色。胎土はやや粗い。長石、石英を含む。 焼成は良好。中期中葉。
7 5O	—	深鉢	I 層	24	14	9	3.7	—	胴部片。無文。	黄褐色。胎土は密。細砂粒、長石を含む。焼成は良好。
8 12Q	—	深鉢	I 層	42	28	9	12.4	胴部片。	縄文 RLO 段多条。	灰黄褐色。胎土はやや粗い。細砂粒、長石を含む。焼成はやや不良。
9 4N	—	深鉢	I 層	25	30	8	8.1	胴部片。	無文。	赤褐色。胎土はやや粗い。長石、石英を含む。 焼成は良好。
10 5N	—	深鉢	I 層	25	40	11	13.1	胴部片。	無文。	黄褐色。胎土は密。細砂粒、長石を含む。焼成は良好。
11 5W	—	深鉢	I 層	40	30	10	13.7	胴部片。	無文。	黄褐色。胎土は密。細砂粒、長石を含む。焼成は良好。



第 48 図　遺構外出土縄文土器 3

第 6 表　遺構外出土縄文土器観察表 3

遺物番号 出土位置	種別	器種	出土層位	法量 (mm)			重量 (g)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
				口径	器高	底径				
12 8Y	土師器	甕	I 層	30	20	5	3.1	口縁部。	内外ヨコナデ。	赤褐色。胎土は密。長石、微細砂を含む。焼成は良好。
13 7W	須恵器	坏	I 層	34	35	4	5.6	底部。	底部未調整。 内外ヨコナデ。	赤褐色。胎土は密。長石、微細砂を含む。焼成は良好。酸化焔焼成。
14 12Q	須恵器	坏	I 層	30	38	7	6.5	口縁部。	内外ヨコナデ。	黄褐色。胎土は密。微細砂を含む。焼成は良好。酸化焔焼成。
15 12Q	須恵器	蓋	I 層	18	15	3	11.0	—	—	褐灰色。胎土は密。長石、海綿骨針を含む。焼成は良好。南比企産。

第 46・47 図 1 ～ 11 は縄文土器である。

1 は縄文時代の土器片である。無文であり、横方向に湾曲が認められる。尖底土器の胴部片と思われる。早期前半終末～早期中葉頃に属すると思われる。

2 は縄文時代の土器片である。所属時期は中期の可能性が高い。

3 は LR 縄文が縦位に回転施文される。縄文時代中期初頭に属する可能性がある。

4 は無文の胴部片である。縄文時代中期に属すると思われる。

5 は胴部片である。縦位に沈線が認められる。縄文時代中期初頭に属すると思われる。

6 は鋸歯条の沈線が認められる胴部片である。縄文時代中期勝坂式に属する可能性がある。

7 は無文の胴部片である。縄文時代中期に属する可能性がある。

8 は 0 段多条の RL 縄文が斜位回転施文された胴部片である。加曽利 E 式か勝坂式の可能性がある。

9 ～ 11 は無文の胴部片である。縄文時代中期に属する可能性がある。

第 48 図 12 は土師器、13 ～ 15 は須恵器である。

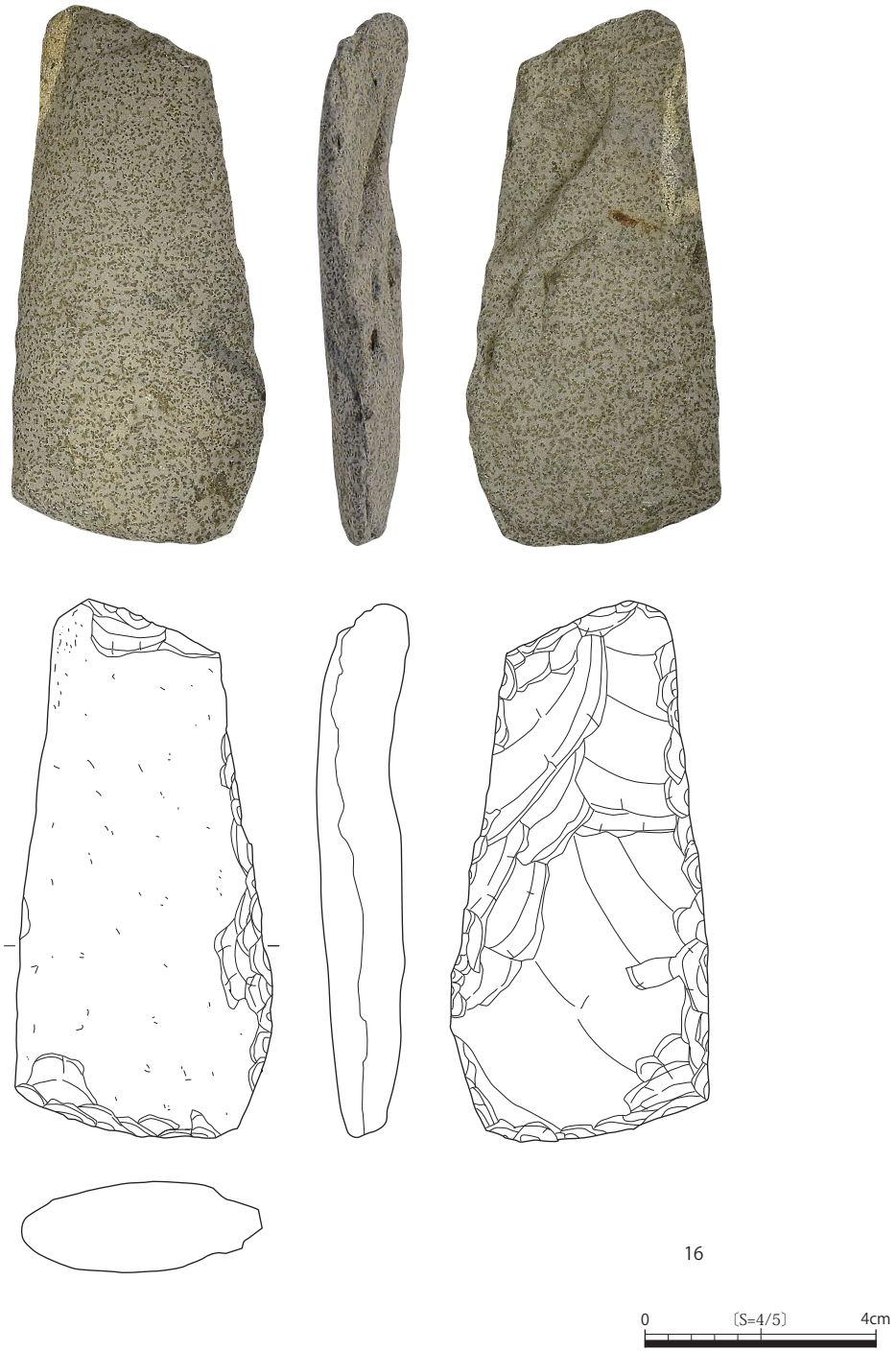
12 は土師器甕の口縁部片である。内外にヨコナデが施されている。奈良・平安時代に属する可能性がある。

13 は酸化焔焼成の須恵器の坏底部片である。内外はヨコナデ、底部は未調整である。

14 は酸化焔焼成の須恵器の坏口縁部片である。内外はヨコナデが施されている。

15 は須恵器の坏蓋片である。海綿骨針を含み、南比企産と思われる。9 世紀後半に属する可能性がある。

②石器

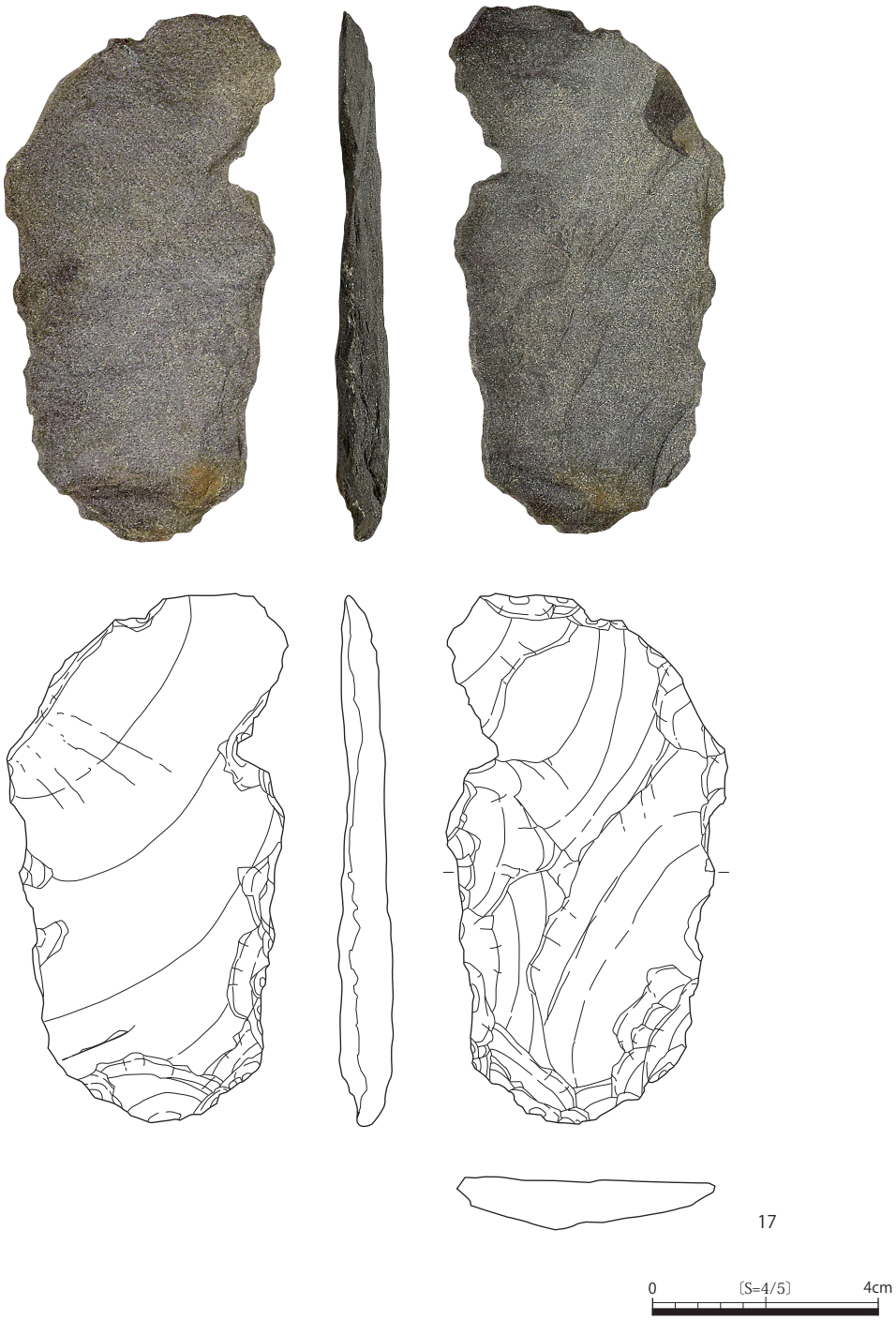


第 49 図　遺構外出土石器 1

第 7 表　遺構外出土石器観察表 1

遺物番号	出土位置・層位	器種	石質	法量 (mm)			重量 (g)	備考
				長さ	幅	厚さ		
16	8R・Ⅰ層	打製石斧	輝緑岩	91	44	14	74.8	撥形

第 49 図 16 は輝緑岩製の打製石斧である。形態は撥形を呈する。扁平な礫を素材としており、主に腹面側を加工している。側面や刃部先端には摩耗が認められる。縄文時代に属すると思われる。

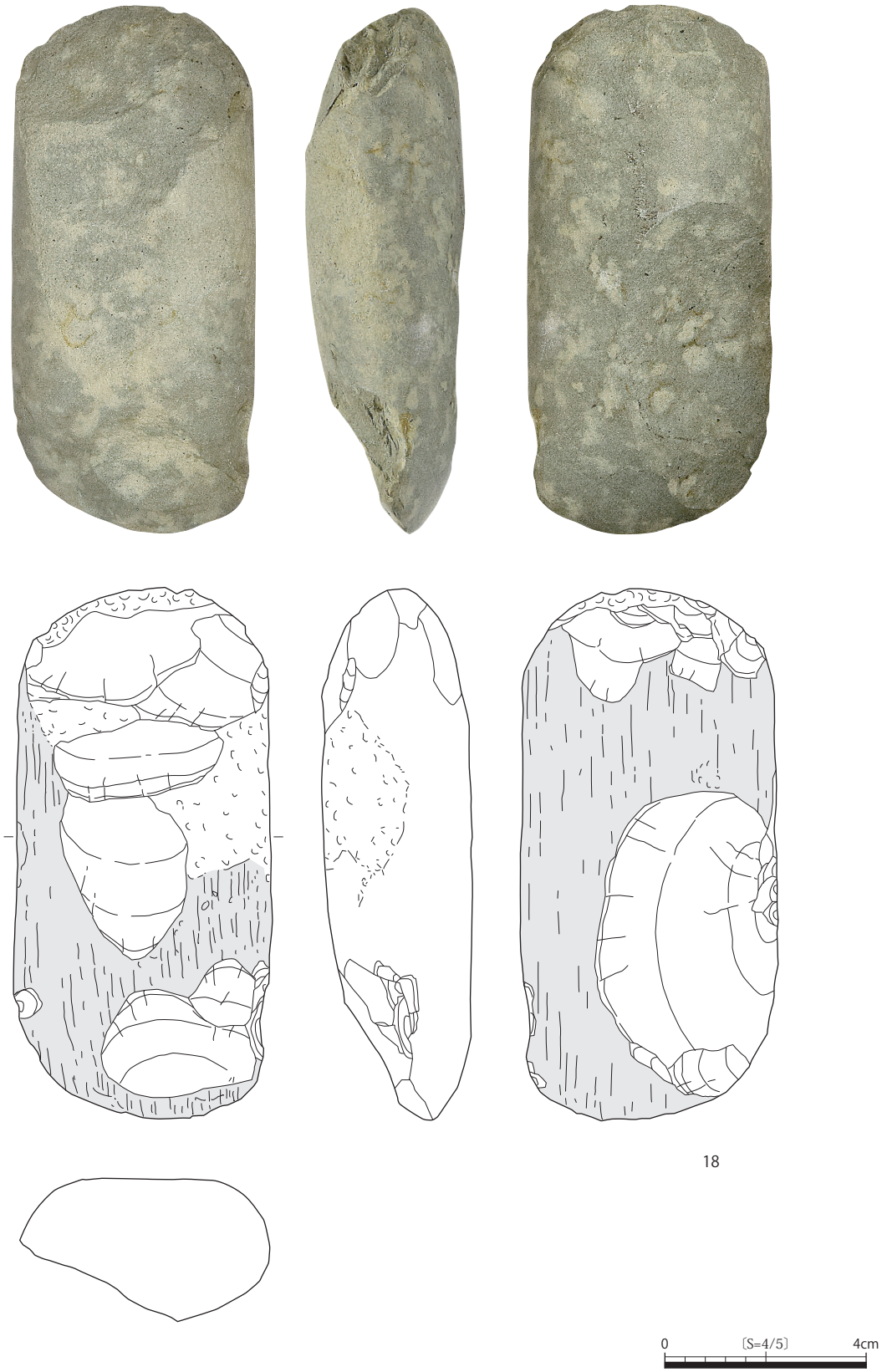


第 50 図　遺構外出土石器 2

第 8 表　遺構外出土石器観察表 2

遺物番号	出土位置・層位	器種	石質	法量 (mm)			重量 (g)	備考
				長さ	幅	厚さ		
17	I 層	打製石斧	ホルンフェルス	94	50	12	39.3	

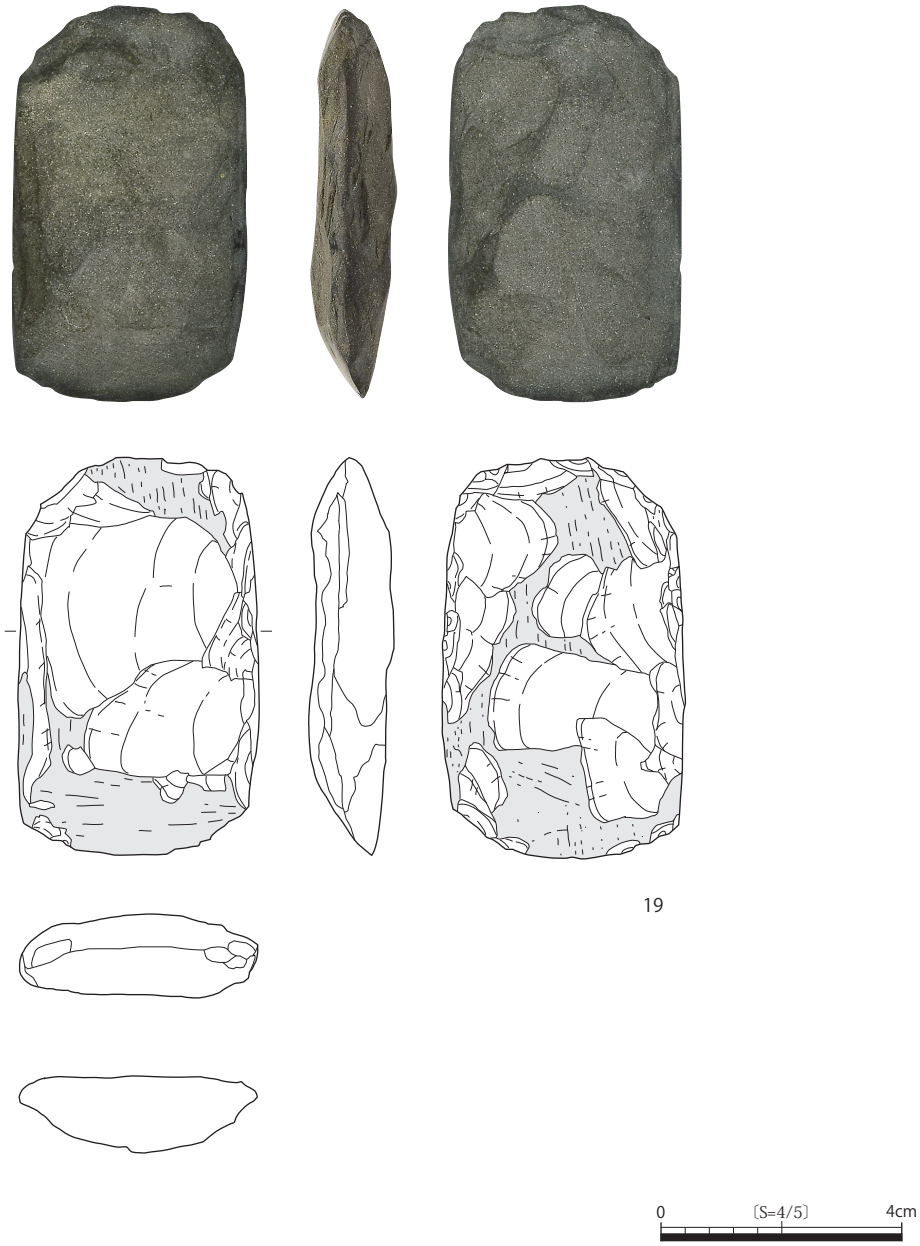
第 50 図 17 はホルンフェルス製の打製石斧である。形態は長楕円形を呈する。扁平な剥片を素材とし、縁辺に加工を施している。縄文時代に属すると思われる。



第 51 図　遺構外出土石器 3

第 9 表　遺構外出土石器観察表 3

遺物番号	出土位置・層位	器種	石質	法量 (mm)			重量（g）	備考
				長さ	幅	厚さ		
18	Ⅰ層	磨製石斧	緑色細粒凝灰岩	106	52	30	256.2	



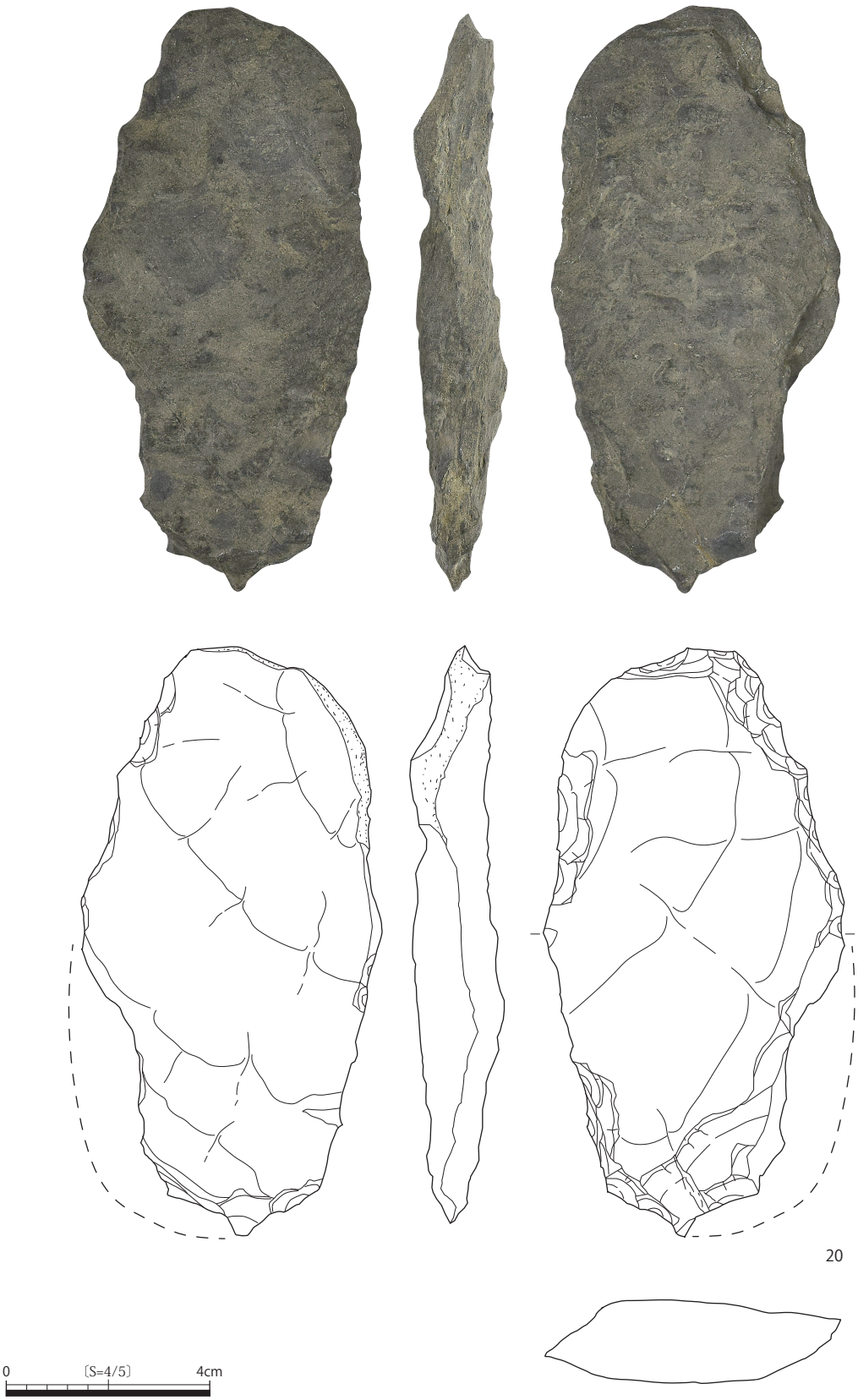
第 52 図　遺構外出土石器 4

第 10 表　遺構外出土石器観察表 4

遺物番号	出土位置・層位	器種	石質	法量 (mm)			重量 (g)	備考
				長さ	幅	厚さ		
19	I 層	磨製石斧	変質玄武岩	67	40	15	52.2	

第 51 図 18 は緑色細粒凝灰岩製の磨製石斧である。形態は長楕円形を呈する。楕円柱の石材を素材とし、両端部に加工を加えて基部と刃部にしている。側面に敲打痕があり、刃部は磨かれている。縄文時代に属すると思われる。

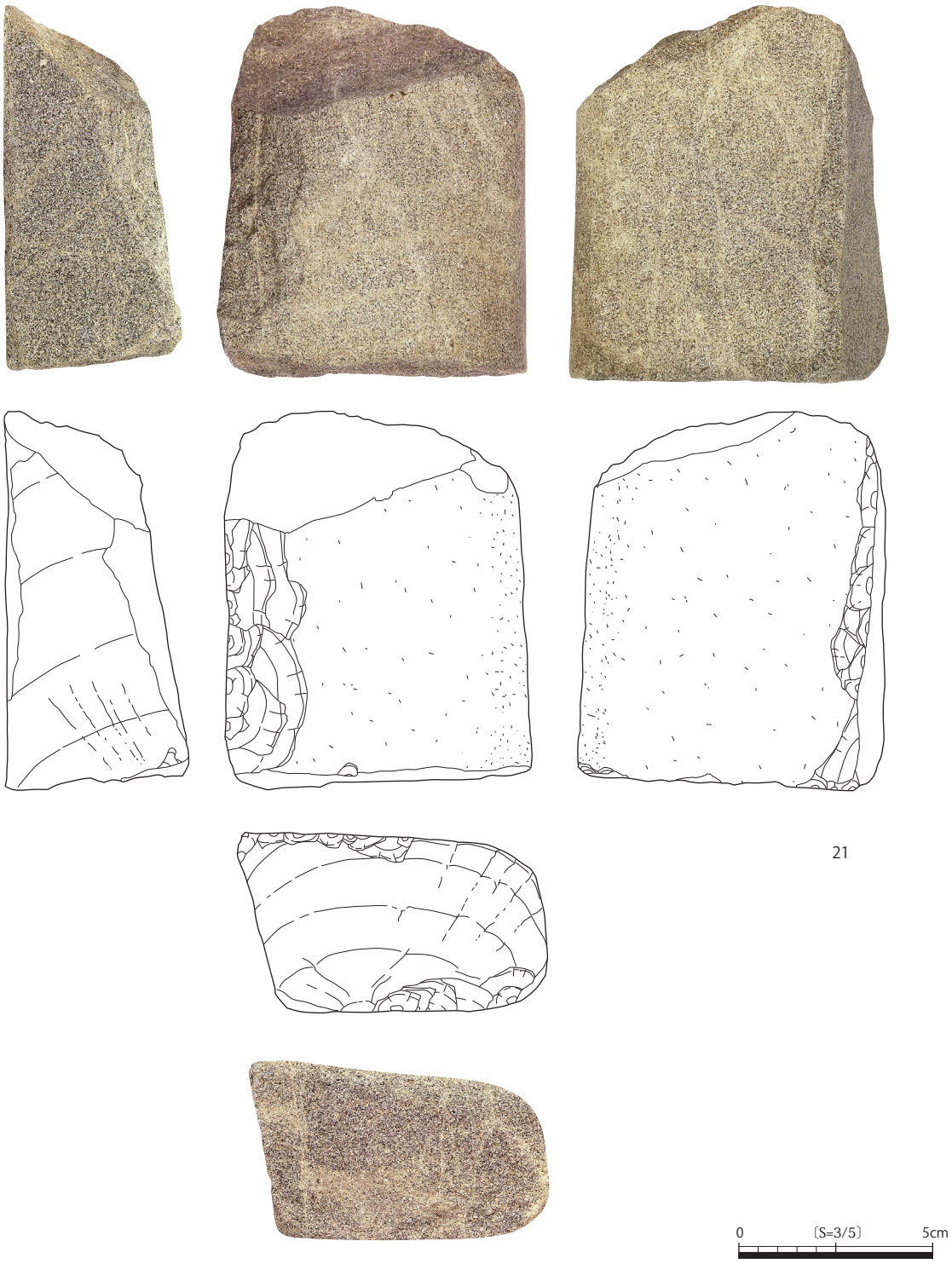
第 52 図 19 は変質玄武岩製の磨製石斧である。形態は長楕円形を呈する。素材石材を大まかな剥離で成形し、周辺加工によって形を整えている。刃部は磨かれている。縄文時代に属すると思われる。



第 53 図　遺構外出土石器 5

第 11 表　遺構外出土石器観察表 5

遺物番号	出土位置・層位	器種	石質	法量 (mm)			重量（g）	備考
				長さ	幅	厚さ		
20	Ⅰ層	打製石斧	ホルンフェルス	116	59	18	115.3	一部欠損。



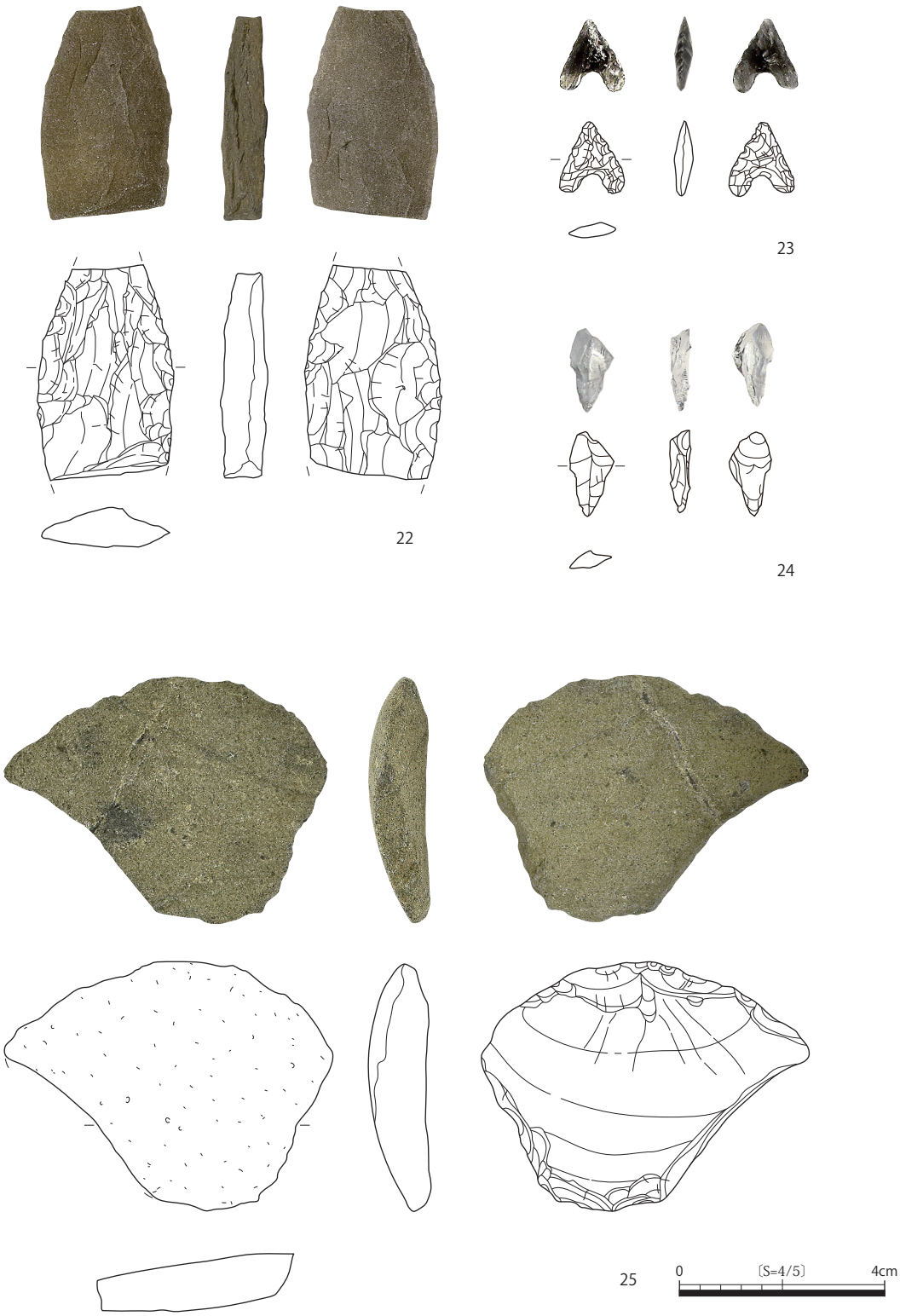
第 54 図　遺構外出土石器 6

第 12 表　遺構外出土石器観察表 6

遺物番号	出土位置・層位	器種	石質	法量 (mm)			重量（g）	備考
				長さ	幅	厚さ		
21	Ⅰ層	スタンプ形石器	砂岩	98	80	50	567.0	

第 53 図 20 はホルンフェルス製の打製石斧である。形態は長楕円形を呈する。横長剥片を素材とし、周辺加工によって形を整えている。刃部の一部が欠損している。縄文時代に属すると思われる。

第 54 図 21 は砂岩製のスタンプ形石器である。亜角礫を素材にし、石材を側面からの打撃によって絶ち割って下端面を形成している。縄文時代早期に属すると思われる。



第 55 図　遺構外出土石器 7

第 13 表　遺構外出土石器観察表 7

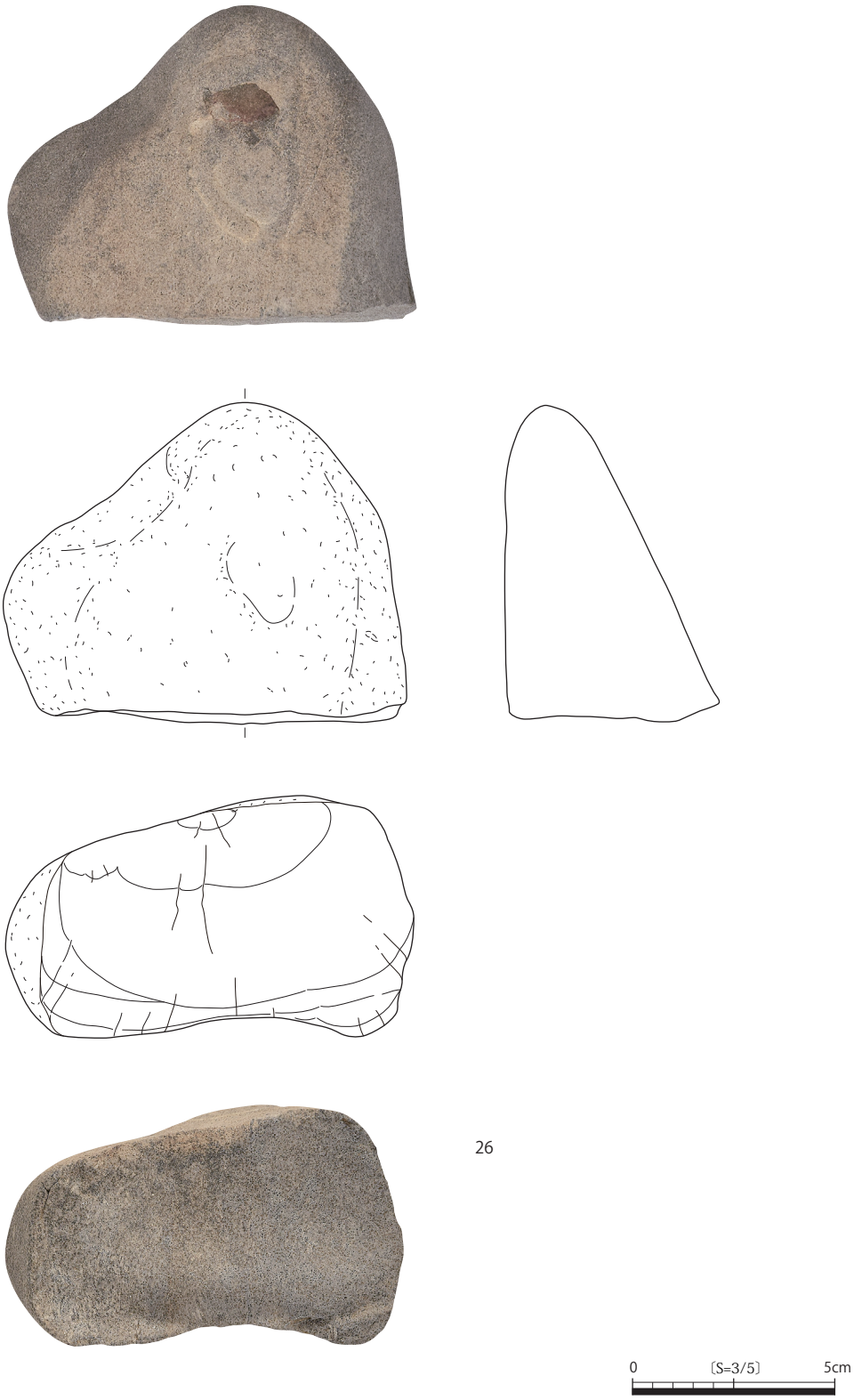
遺物番号	出土位置・層位	器種	石質	法量 (mm)			重量 (g)	備考
				長さ	幅	厚さ		
22	Ⅰ層	尖頭器	ガラス質黒色安山岩	42	27	9	8.9	先端、基部欠損。
23	Ⅰ層	石鏃	黒曜石	16	14	4	0.4	
24	Ⅰ層	石錐	水晶	17	9	4	0.4	
25	Ⅰ層	掻器	変質安山岩	49	64	14	38.2	

第 55 図 22 はガラス質黒色安山岩製の尖頭器である。先端と基部を欠損している。周辺加工は背面方向、腹面方向と交互に施されている。縄文時代の草創期に属すると思われる。

第 55 図 23 は黒曜石製の石鏃である。基部は凹基である。縄文時代早期に属すると思われる。

第 55 図 24 は水晶製の石錐である。小型の縦長剥片を利用している。縄文時代に属すると思われる。

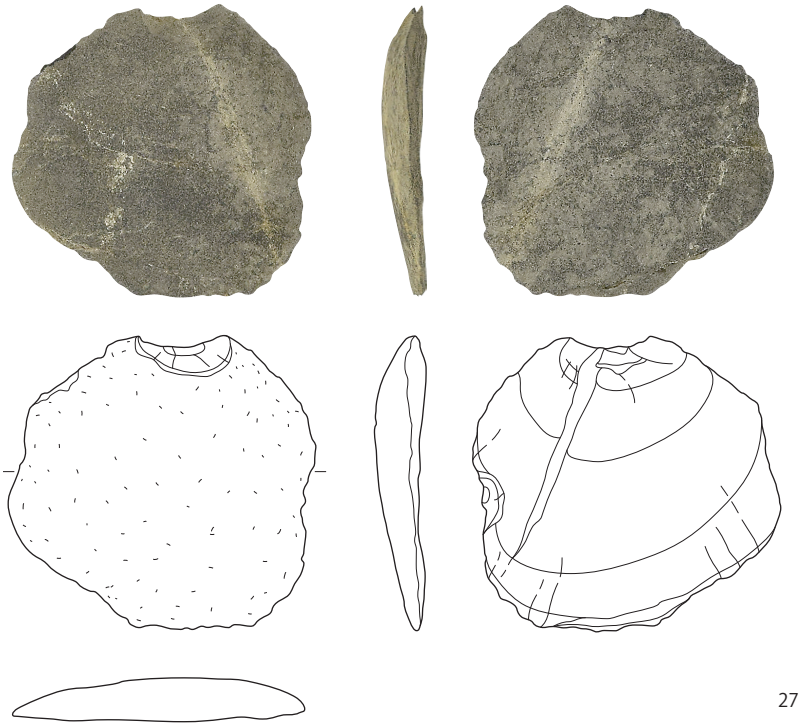
第 55 図 25 は変質安山岩製の掻器である。背面には礫面が大きく残っている。縁辺を背面側からの加工によって刃部を形成している。縄文時代に属すると思われる。

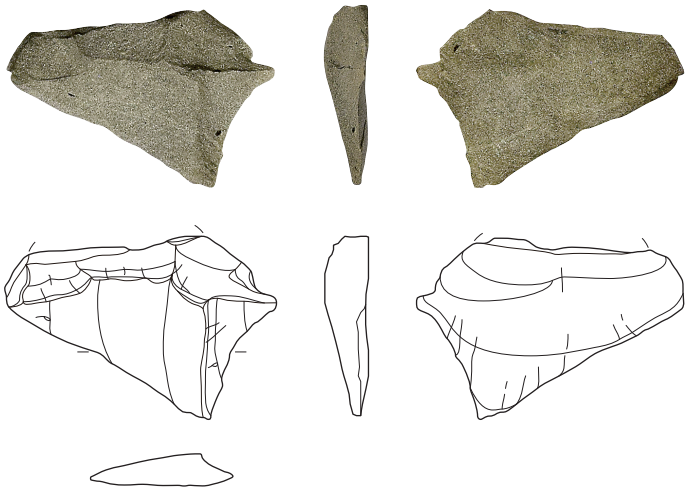


第 56 図　遺構外出土石器 8

第 14 表　遺構外出土石器観察表 8

遺物番号	出土位置・層位	器種	石質	法量 (mm)			重量（g）	備考
				長さ	幅	厚さ		
26	Ⅰ層	剥片	ホルンフェルス	80	100	53	520.0	亜角礫を側面の打撃によって断ち割っている。

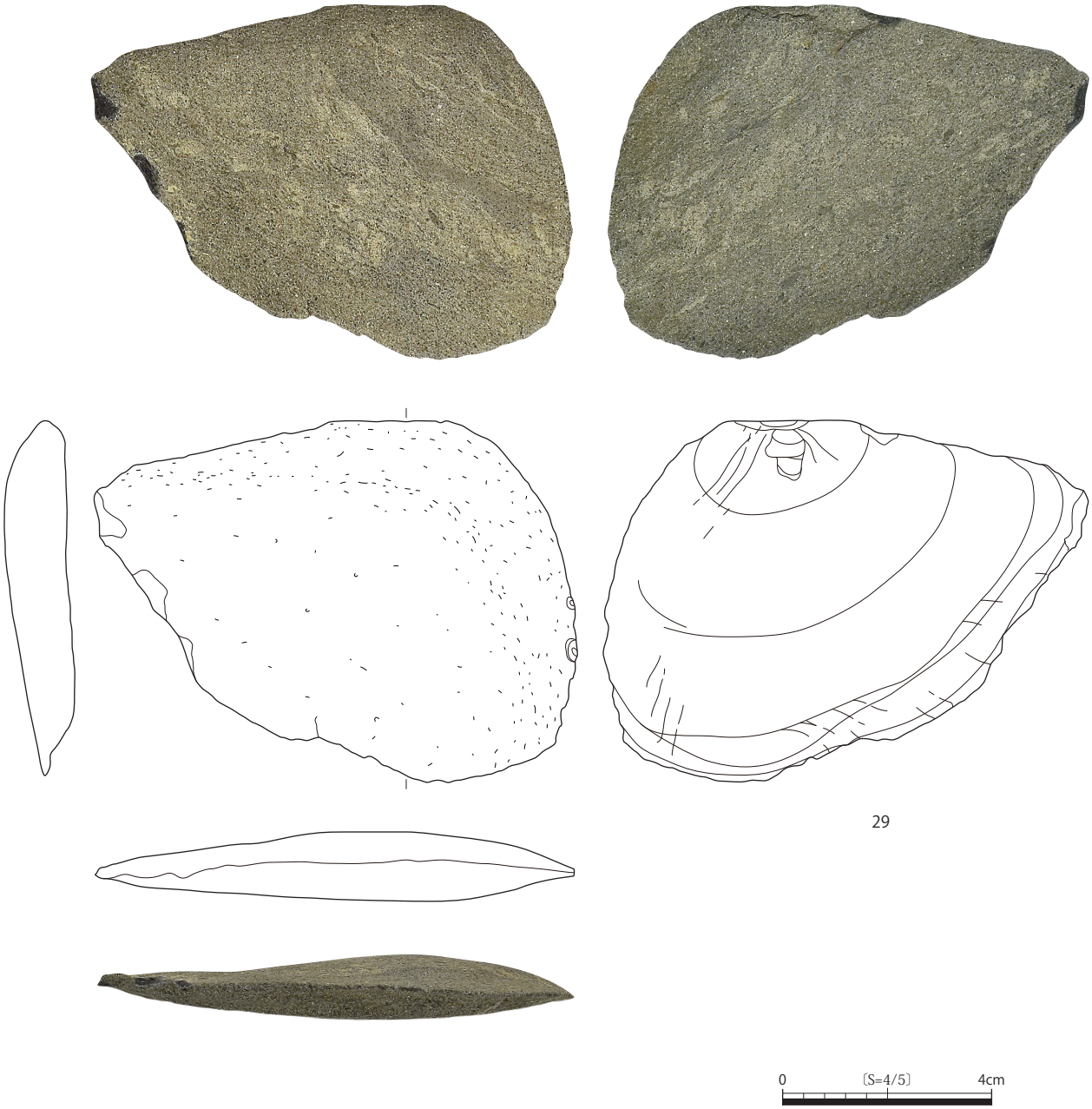




第 57 図　遺構外出土石器 9

第 15 表　遺構外出土石器観察表 9

遺物番号	出土位置・層位	器種	石質	法量 (mm)			重量（g）	備考
				長さ	幅	厚さ		
27	Ⅰ層	剥片	ホルンフェルス	49	52	9	19.0	礫面が残る。
28	Ⅰ層	剥片	頁岩	31	45	8	6.5	



第 58 図　遺構外出土石器 10

第 16 表　遺構外出土石器観察表 10

遺物番号	出土位置・層位	器種	石質	法量 (mm)			重量（g）	備考
				長さ	幅	厚さ		
29	Ⅰ層	剥片	ホルンフェルス	68	92	13	79.9	礫面が残る。

第 56 図 26 はホルンフェルス製の剥片である。亜角礫を横からの打撃によって断ち割っている。スタンプ形石器製作のための素材と思われる。縄文時代早期に属すると思われる。

第 57 図 27 はホルンフェルス製の剥片である。円礫から剥がされた素材剥片の可能性がある。縄文時代に属すると思われる。

第 57 図 28 は頁岩製の剥片である。尖頭器などの加工の際に剥離された剥片と思われる。縄文時代に属すると思われる。

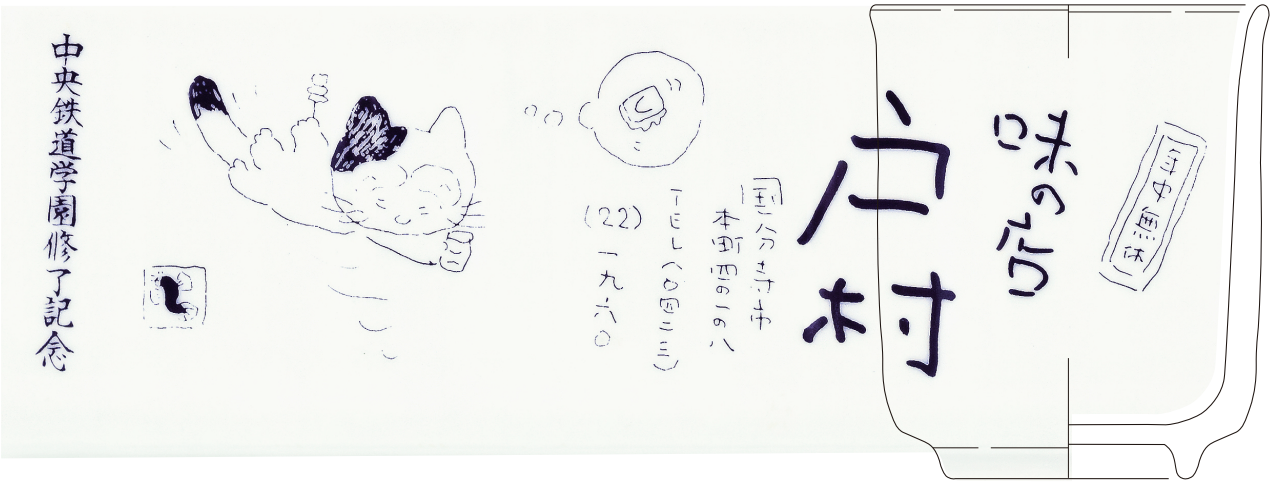
第 58 図 29 はホルンフェルス製の剥片である。円礫から剥がされた素材剥片の可能性がある。縄文時代に属すると思われる。

③近現代遺物

調査区内の撹乱から中央鉄道学園に帰属すると思われる多量の遺物が出土している。主な遺物は、磁器、陶器、ガラス瓶、缶製品、化粧・薬瓶、鉄道レール等である。ガラス瓶にはアルコール飲料と清涼飲料水が、缶製品には清涼飲料水が、化粧には整髪料などが含まれる。いずれも昭和 40 年代～50 年代に帰属するものと思われる。

以下に主な遺物を掲載する。

30



31

0 〔S=4/5〕 4cm

第 59 図　遺構外出土遺物 1

第 60 図　遺構外出土遺物 2

第 17 表　遺構外出土遺物観察表 1

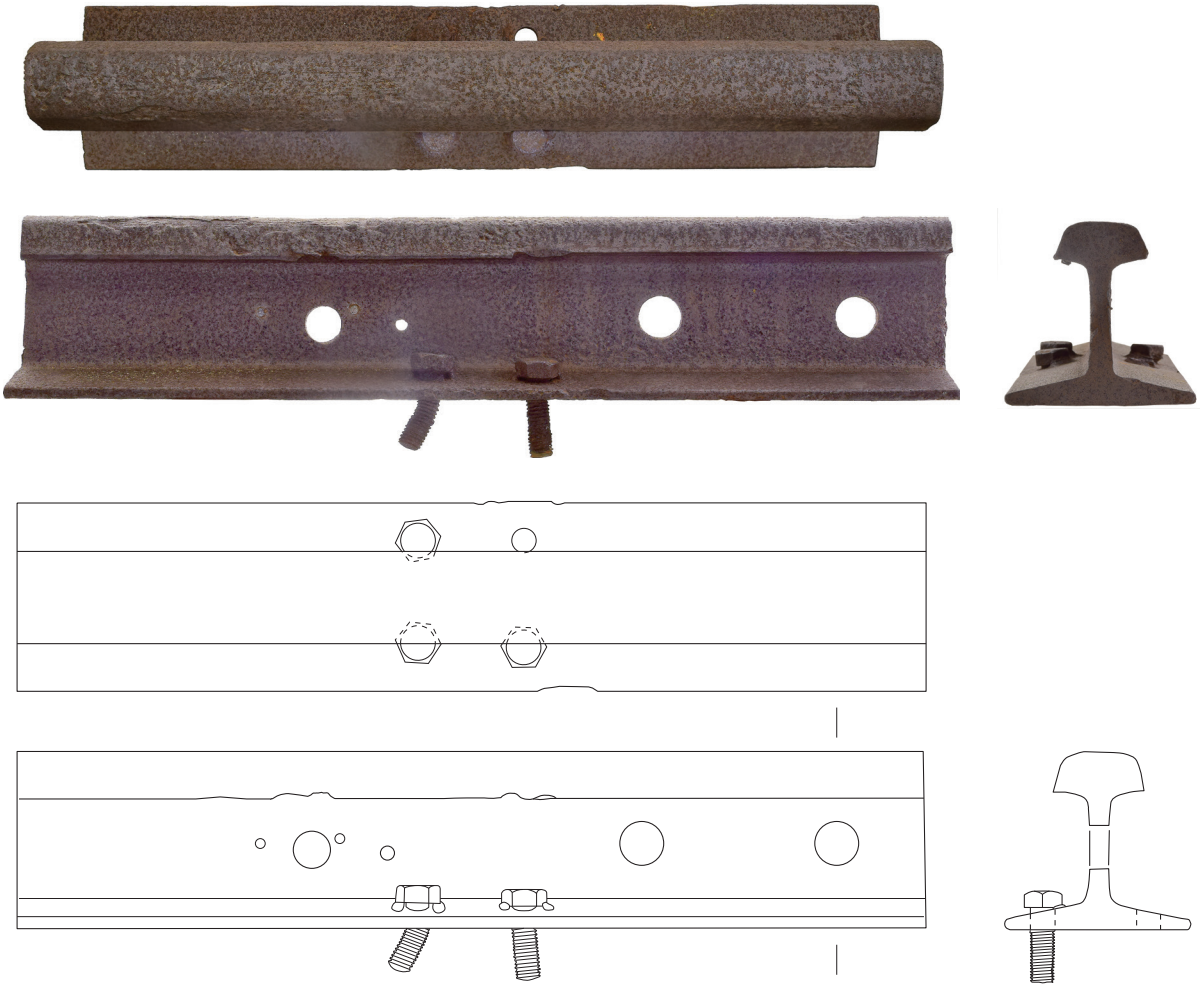
遺物番号 出土位置	種別	器種	出土層位	法量 (mm)			重量 (g)	備考
				口径	器高	底径		
30	磁器	湯呑茶碗	撹乱	56	85	40	133.5	大衆酒場「戸村」イラストと「中央鉄道学園終了記念」が描かれている。イラストはうちわを持った従業員風の人物が描かれている。イラストの作者は滝田ゆう。
31	磁器	湯呑茶碗	撹乱	64	79	38	144.3	大衆酒場「戸村」イラストと「中央鉄道学園終了記念」が描かれている。イラストは猫。フキダシにセリフではなく、下駄が描かれている。イラストの作者は滝田ゆう。

第 59 図 30・31 は湯呑茶碗である。国分寺駅北口に所在していた居酒屋の広告と「中央鉄道学園修了記念」が銘記されている。1950 年代から 1980 年代にかけて製作されたものと思われる。30 は「うちわを持った人物画」が、31 には「猫」のイラストが描かれている。イラストの作者は滝田ゆうである。

第 18 表　遺構外出土遺物観察表 2

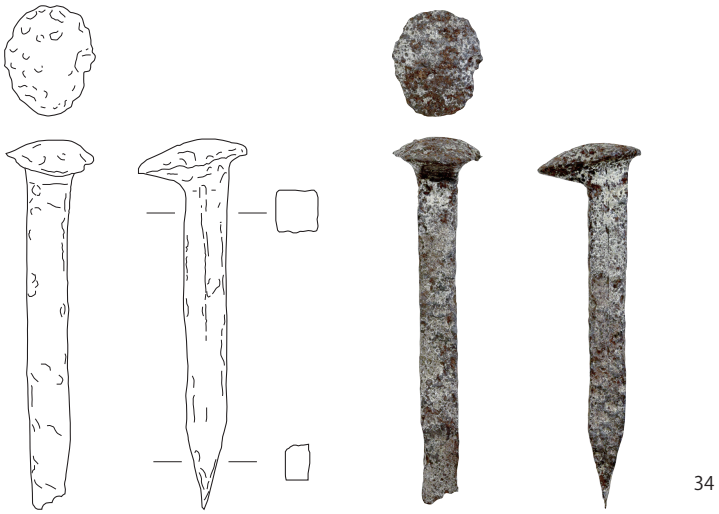
遺物番号 出土位置	種別	器種	出土層位	法量 (mm)			重量 (g)	備考
				長さ	幅	厚さ		
32	煉瓦	耐火煉瓦	表採	230	115	65	3800.0	「OYT」大阪窯業耐火煉瓦株式会社と「ARW36」耐摩耗性煉瓦の刻印あり。

第 60 図の 32 は耐火煉瓦である。表面には楕円で囲まれた「OYT」と「ARW36」の刻印が確認できる。「OYT」とは大阪窯業耐火煉瓦株式会社を表しており、「ARW36」は、耐摩耗性煉瓦を表している。（高橋克明・谷岡守　1964）



33

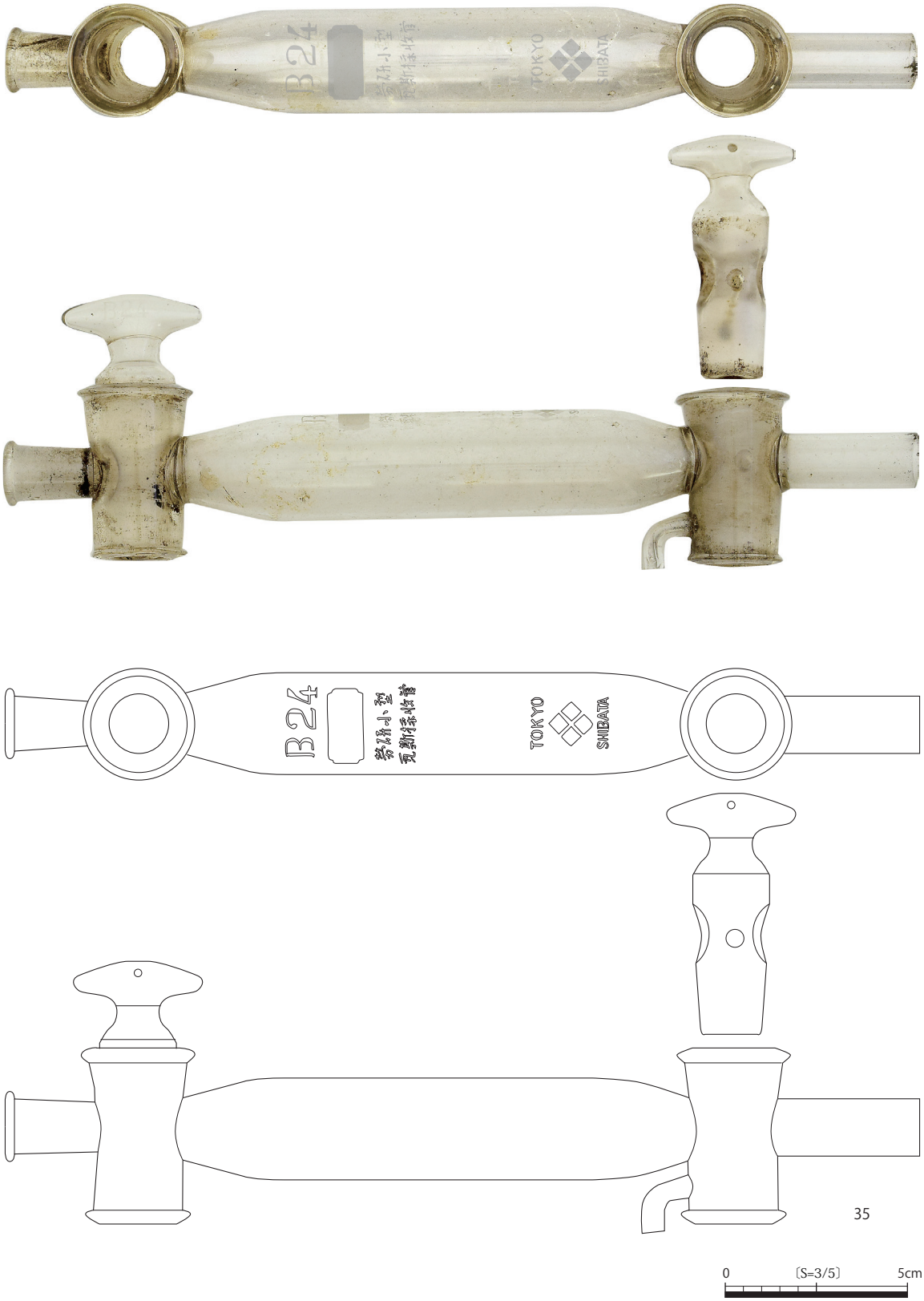
0 〔S=1/5〕 10cm



34

0 〔S=1/3〕 1cm

第 61 図　遺構外出土遺物 3



第 62 図　遺構外出土遺物 4

第 19 表　遺構外出土遺物観察表 3

遺物番号 出土位置	種別	器種	出土層位	法量 (mm)			重量 (g)	備考
				長さ	幅	厚さ		
33	鉄製品	レール	撹乱	600	122	118	15,800.0	両端の切断面が異なる。側面に大小の穴が開いている。小穴には銅が埋め込まれいるものもある。
34	鉄製品	犬釘	撹乱	147	44	35	263.0	頭部は丸みを帯びている。

第 20 表　遺構外出土遺物観察表 4

遺物番号 出土位置	種別	器種	出土層位	法量 (mm)			重量 (g)	備考
				長さ	幅	厚さ		
35	ガラス製品	小型瓦斯採収管	撹乱	250	45	32	147.0	「B24 勞研小型瓦斯採収管 TOKYO SHIBATA」の銘がある。 割菱マーク有り。「勞研小型瓦斯採収管」は手書き。

第 61 図 33 は平底レールで、高さ 118mm、底部幅 122mm、頭部幅 59mm を測る。撹乱中から数十本のレールが出土した中の 1 本である。出土したレールは曲がっているものが多く、長さも 1m 以下のものが多い。遺物の出土様相から、レールを再利用したものと思われる。33 のレールは両端が切断されているが、片方は機械によって切断されているが、もう片方は手作業で切断されていると思われる。またレールの中程に不揃いの穴が空いており、銅が充填されている穴もある。表面の摩耗は少なく、レールとしての使用は少ない、または無いものと思われる。このことから、レールとしては使用しておらず、レール設置等の練習のためのレールとして使用された可能性を考える。

第 61 図 34 は、犬釘である。レールを枕木に固定するために使用された。犬釘の頭部は丸みを帯びている。調査地東隣接地で行われた 747 次調査出土の犬釘に似る。

第 62 図 35 は小型瓦斯採収管である。上部に「B24 小型瓦斯採収管　TOKYO SHIBATA」との銘がある。「勞研小型瓦斯採収管」は手書きされている。「TOKYO SHIBATA」は現在の柴田科学のことであると思われるが、柴田科学のローマ字表記は「SIBATA」であり、かつ割菱マークがネガポジ反転している。

（3）SX373 地下室状遺構について

SX373 地下室状遺構は調査区北部、グリッド 6I、7I、7J で確認された。平面形は竪坑を中心に東西南北に横穴状の室部を持ち、十字形を呈する。長軸方向は N-8°-W である。断面形は天井部が湾曲する逆 U 字形を呈する。遺物が出土してないことから、帰属時期は判然としないが、規模・形状からは防空壕かうどムロの可能性が考えられる。

市内における防空壕は 24 ヶ所確認されている（第 21 表）。主に市内南東部に集中するが、この偏りは市内における開発状況が影響している可能性がある（第 63 図）。確認されている防空壕は、小規模なものが大半であり、個人が自宅周辺などに設けたものと思われる。戦時中の『国民防空読本』によれば、小規模な防空壕は、「空き地さへあれば比較的簡単に些少の経費で一般の人々にも容易に作れる点で有効な防空施設」とされている。「防空壕築造の要領は、破壊用爆弾に因る弾片、爆風の作用等の被害を避けることを主とする」ものである。防空壕構築の方針はおおむね以下のとおりである。

1．敷地内の庭又は空地に設ける。付近に空地がない等やむを得ない時には床下を利用する。
2．一敷地内に多数の者を収容する場合は、一ヶ所にまとめずに、なるべく小さいものを分散的に設ける。一防空壕の収容人数は 20 人位を限度とする。
3．周辺の状況により差し支えなのない限り地表面から突出しないようにし、上部は開放したものではなく、掩蔽式にする。
4．入口には弾片、崩壊物、爆風に因る飛散物等が直接侵入しない様に、防護塀を設けるか、入口を屈曲させる。
5．防空壕は土地の状況、手持ちの材料等に応じて適当な工夫をする。地下式の場合は深さ 1.5m 前後を掘る。

市内において確認された防空壕の形態をまとめると第 64 図のようになる。特徴としては、入口が二ヶ所あり、階段が設けられている。

主軸が直線的ではなく、屈曲しているものもある。入口が二ヶ所設けられているのは、空襲時に素早く防空壕へ退避できるようにであり、階段が設けられているのも同じ理由によるものと考えられる。

一方、うどムロについては、『東京うど物語』が詳しい。『東京うど物語』によると、うどムロはうどを軟化するために用いられるものであり、当初は畑に溝を掘ってその中にうどを入れるなどをしていた。第二次世界大戦後、平面形が十字形を呈するうどムロ（第 65 図）が普及していった。地下深く竪坑を掘る理由は、ローム層（地表面下 3 m 以上）が恒温層となり年間温度が変化しないためである。国分寺市に普及したのは『東京うど物語』よれば昭和 30 年（1955）頃とされている。

市内におけるうどムロ確認例としては、西町つつじ公園（西町 2 丁目 22-40）で確認されたうどムロがある（第 66 図）。平面形は丁字を、断面形は歪な五角形状を呈する。規模は、竪坑の開口部が長辺 1.3 m、短辺 0.8 mの南北に長軸を有する長方形状を呈し、坑面までの深さは地表面から 4.0 m で、ほぼ垂直方向に掘られている。北西・北東・南東の 3 方向に展開しており、北西と南東の室部は主軸が N-20° -E に触れ、北東の室部はこれらと直交する。北西の室部は竪坑部側・奥壁側ともに幅 0.9 m、奥行 3.0 mの平面長方形状を呈する。

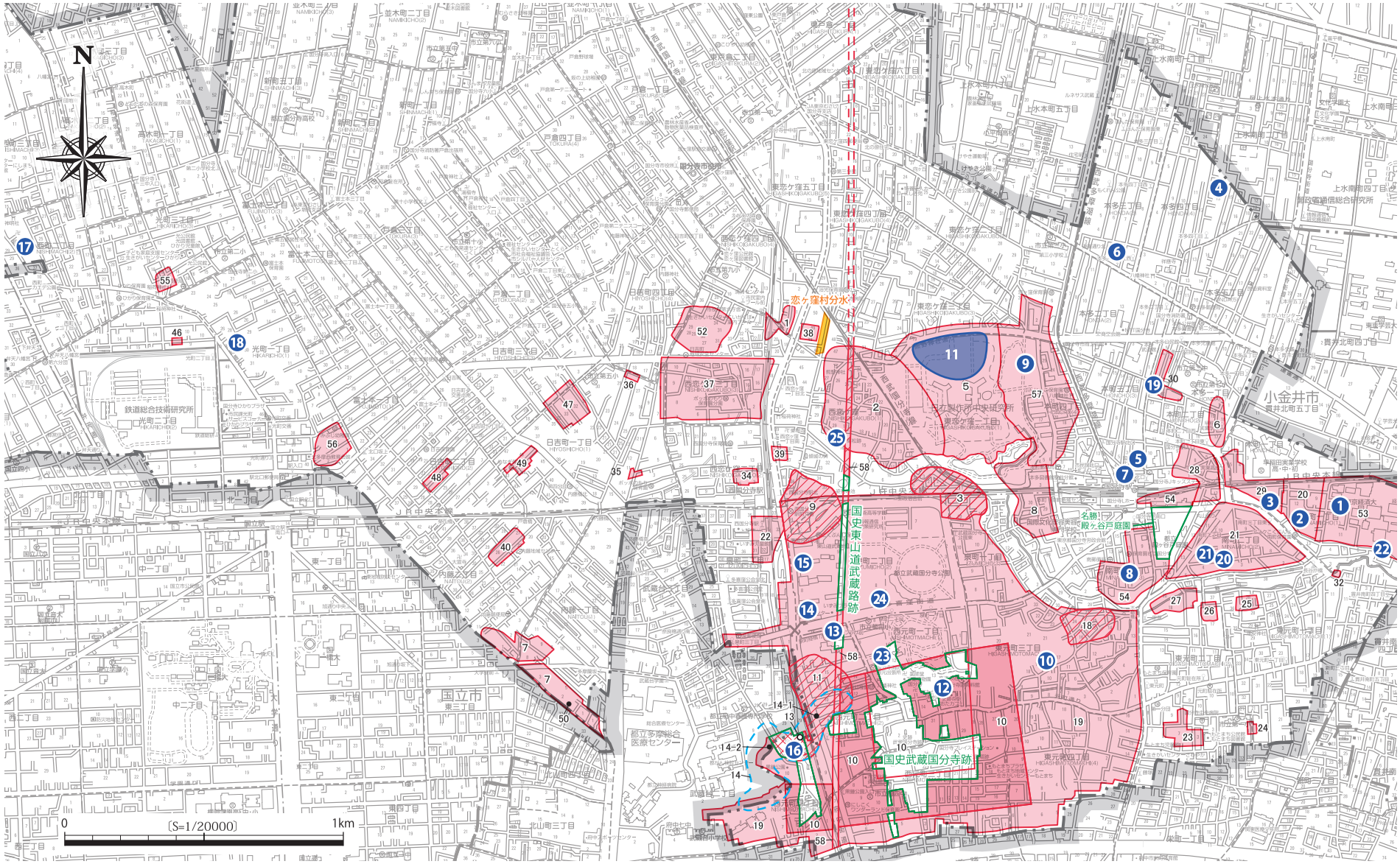
これらのうどムロの特徴をまとめると、入口は中央に一ヶ所で開口部は径 1 m 以内の方形もしくは円形、地表面から底面までの深さは 3 m 前後である。室部の幅は約 1 m で奥で幅広になることもあり、断面形は逆 U 字形である。

当該遺構 SX373 をみると、形態は平面形が十字形、入口は不明だが、一ヶ所と思われる。階段は設けられておらず、地表面から底面までの深さは約 3.60m を測る。室部は東西南北に展開し、断面形は逆 U 字形を呈する。以上を勘案すると、防空壕ではなくうどムロである可能性が高い。

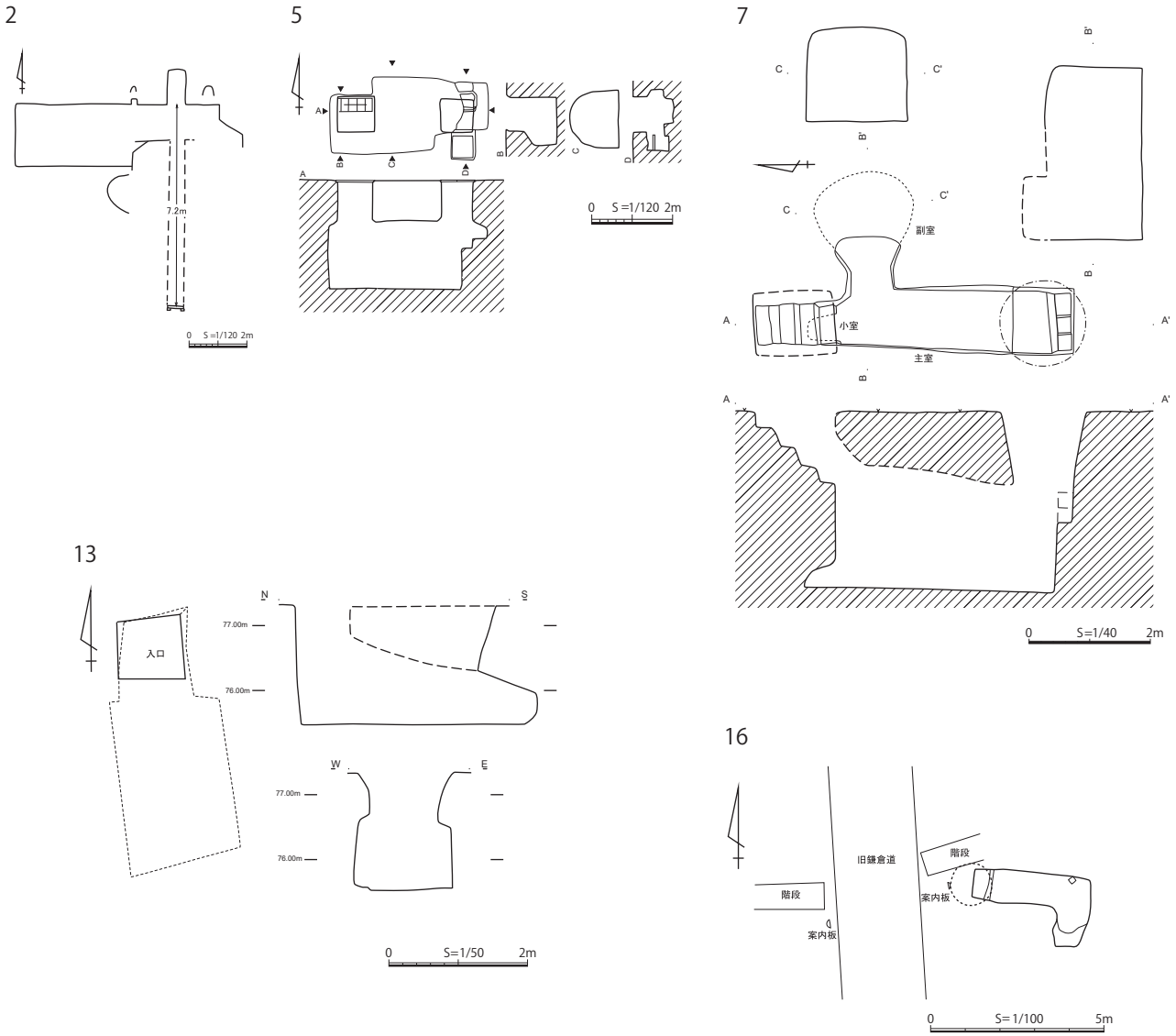
第 21 表　防空壕一覧表

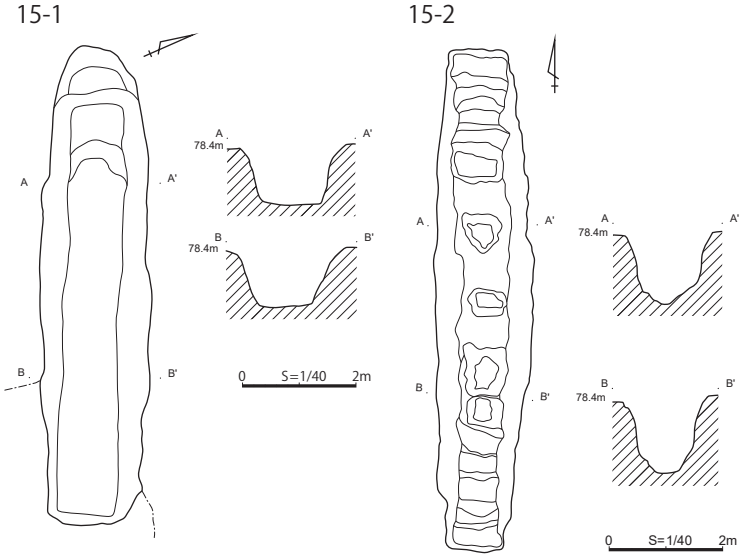
番号	所在地	遺跡名	遺構・規模	遺物	出典
1	南本町 1-10-11	東京経済大学構内遺跡	当時の建物の軒先に掘られており，軒先を伸ばす形で屋根が掛けられていた。対空砲弾の時限信管が屋根に当たった。底部はコンクリートで固められていた。		聞取りによる。
2	南町 1-12-10	殿ヶ谷戸北遺跡	東西 6 × 2m（残存部） 横穴壕 南入口から奥壁まで 7m		『武蔵国分寺跡資料館だより』第 19 号
3	南町 1 丁目 （中央線南側）	No.29・殿ヶ谷戸北遺跡	横穴壕が並んでいた。		
4	本多 4-13-35	包蔵地外	コンクリート製		聞取りによる。
5	本町 3-2	包蔵地外	東西 3.3 × 1.9 ×高 1.7m 東西二箇所に入口 0.9m 四方底まで 地表から 2.7m		『武蔵国分寺跡資料館だより』第 19 号
6	本多 3-2-19	包蔵地外			絵・写真あり。
7	本町 3-1-1 先	包蔵地外	南北 5.2 × 1.1 ×高 1.7 ～ 2.0m （主室），2.0 × 1.6 ×高 1.6m （副室）南北階段・梯子	陶磁器（明治）・大型碍子・陶器製帽子掛け・硯・プラスチック製櫛・絶縁配線器具	『平成 27 年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』（100-109 頁）
8	南町 3-7-14	花沢東遺跡第 15 次調査			『平成 29 年度国分寺市埋蔵文化財調査概報』
9	東恋ヶ窪 1-280	恋ヶ窪東遺跡			聞取りによる。
10	東元町 3-1436-20	武蔵国分寺跡第 736 次調査	東西 4 × 1.5m（残存部） 横穴壕南入口		『平成 30 年度国分寺市埋蔵文化財調査概報』
11	東恋ヶ窪 1-280	羽根沢遺跡第 6・8 次調査	11 基検　出硝子製品・プラスチック製品・銭貨		『羽根沢遺跡発掘調査報告書第 6 ・ 8 次調査』
12	西元町 1-13-10 （武蔵国分寺跡資料館）	武蔵国分寺跡・史跡地内	東西横穴壕南入口		写真あり。
13	西元町 2-17-16	武蔵国分寺跡第 707 次調査	約 2.4 × 1.7m ×高さ 1.8m 入口は約 1m，立坑入口付近がアーチ状で，奥に向かって平らになる。	指輪・ガラス片・陶磁器・絶縁配線器具	『平成 27 年度国分寺市埋蔵文化財調査概報』（61 ～ 79 頁）
14	泉町 2-3 ～ 4 （多喜窪通り沿い）	日影山遺跡	径 8.2+ 張出部 2.3 × 1.4 ×深 1.8m	河原石	『日影山遺跡・東山道武蔵路』（1999）
15-1	泉町 2-6（駐車場付近）	日影山遺跡	東西 8.4 × 1.8 ×深 1.0m 西階段	大砲の薬莢と思われる鉄片	『日影山遺跡・東山道武蔵路』（1999）
15-2	泉町 2-6（駐車場付近）	日影山遺跡	南北 8.8 × 1.7 ×深 1.2m 南北階段	12.7m 機銃弾（おそらく日本軍）	『日影山遺跡・東山道武蔵路』（1999）
16	西町 4-1	武蔵国分寺跡第 599 次調査	東西 3.4 × 1m（主室）奥で屈折し 1m 横穴壕西入口	陶器類（昭和）・女瓦・石器（縄文）	『平成 16・17 年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』（68-69 頁）
17	西町 2-27-8（観音寺）	包蔵地外	包蔵地外 砂利取り穴を転用しているため，深度は礫層。学校の用品を受け入れることができるほどの大きさがあった。		佐藤多持 1985『戦時下の絵日誌：ある美術教師の青春』けやき出版
18	光町 1-29	包蔵地外	崖線沿いの用水を渡ったところにある横穴壕。		聞取りによる。
19	本町 2-25-8	No.30 遺跡		陶磁器・ガラス製品	『平成 30 年度国分寺市埋蔵文化財調査概報』（166 ～ 175 頁）
20	南町 2-4-12	殿ヶ谷戸遺跡		陶磁器・ガラス瓶・鉄製品	『令和 3 年度国分寺市埋蔵文化財調査概報』（未刊行）
21	南町 2-6-2	殿ヶ谷戸遺跡			間取りによる。
22	南町 1-2-8 付	東京経済大学構内遺跡	国分寺崖線（東経大側）に向けて掘られた横穴壕		擁壁立会調査
23	西町 1-1626-2、 1628-2	武蔵国分寺跡・史跡地内	南北階段・主室		『令和 5 年度国分寺市埋蔵文化財調査概報』（未刊行）
24	泉町 2-2	武蔵国分寺跡	西階段（東壁に小穴 8 基、西壁に小穴 2 基、南壁に小穴 2 基、北壁に小穴 5 基）		『武蔵国分寺跡（第 747 次調査）（28 ～ 31 頁）
25	西恋ヶ窪 1-16-8	恋ヶ窪遺跡	西・南入口		『令和 5 年度国分寺市埋蔵文化財調査概報』（未刊行）

＊ 14 は現在では高射砲陣地跡と認識されている。

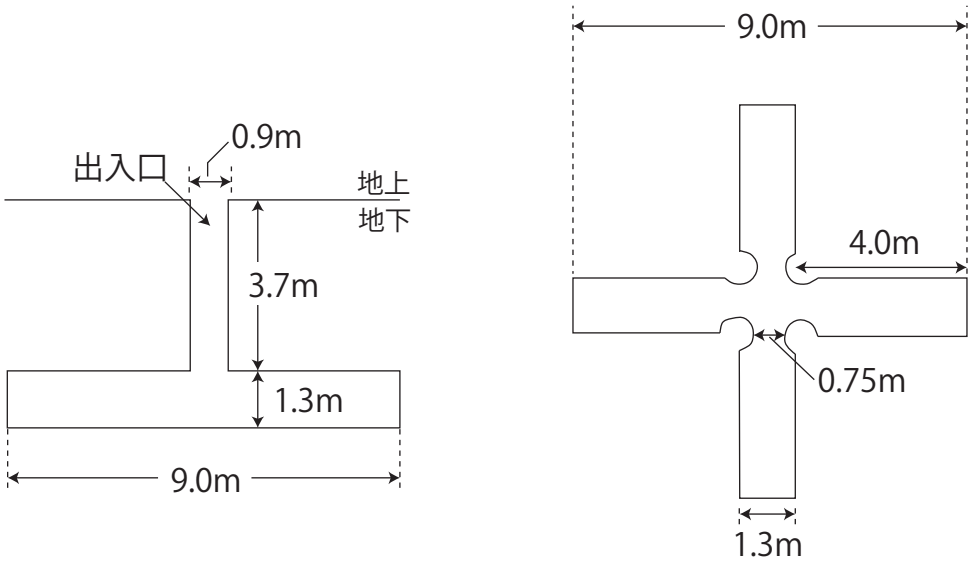


第 63 図　国分寺市内防空壕位置図 (1：20000)



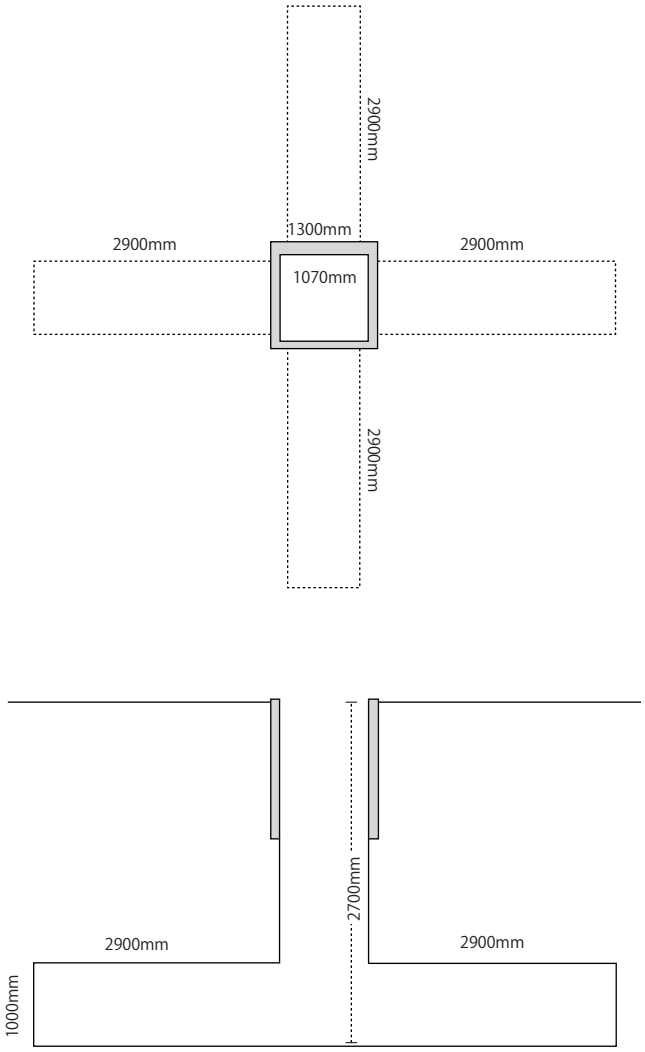


第 64 図　国分寺市内の防空壕（縮尺は任意）



（東京うど物語編集委員会 1997『東京うど物語』よりトレース作成）

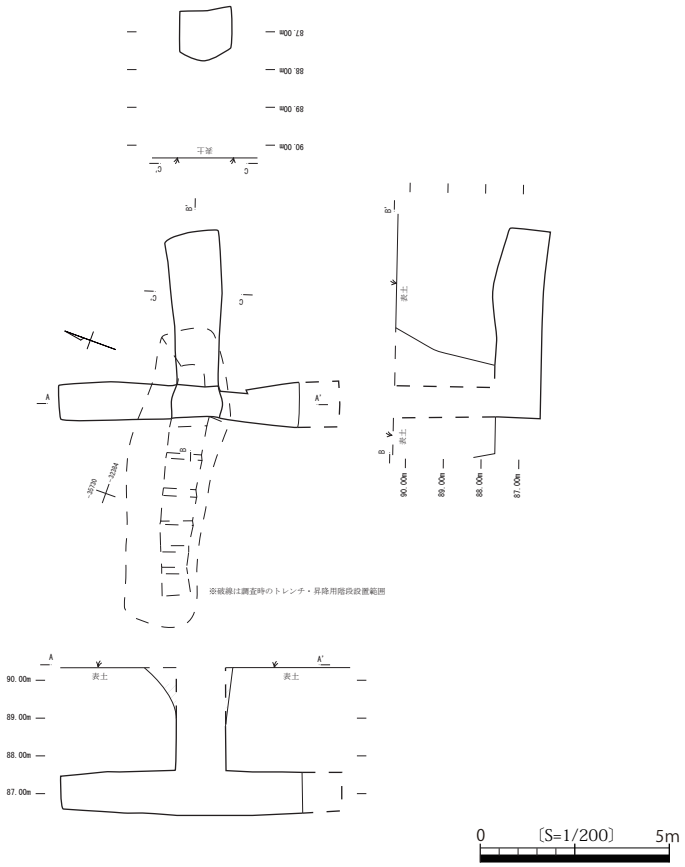
「東京うど物語」記載のうどムロ模式図



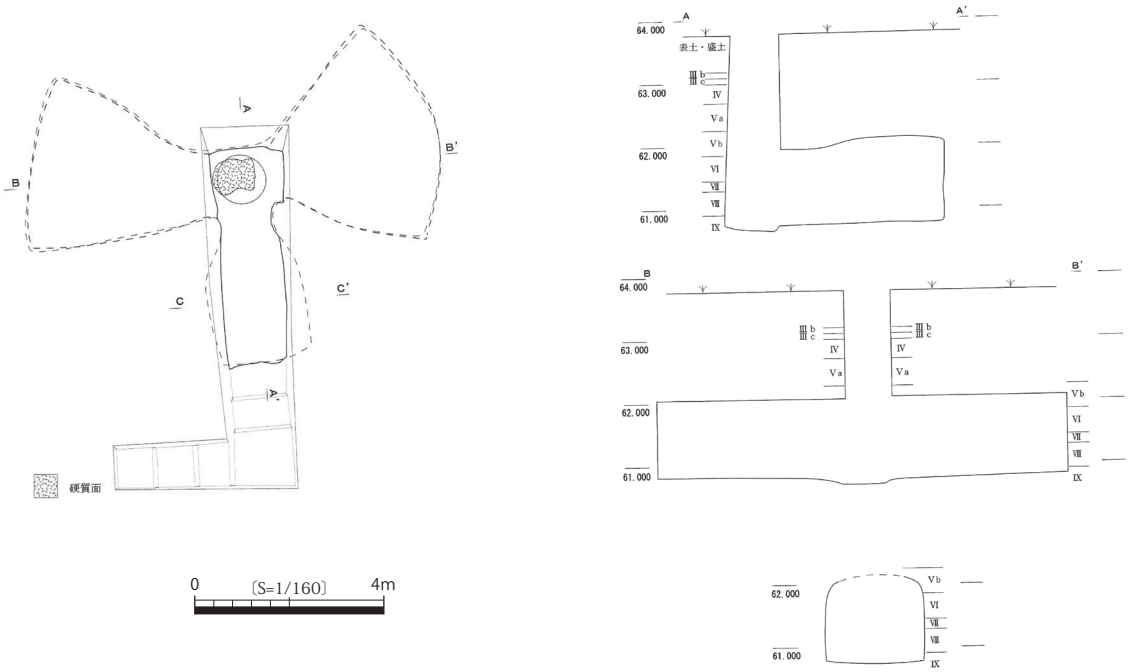
現代の北町のうどムロ

（国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課 2015『国分寺市の今昔』よりトレース作成）

第 65 図　現代うどムロの模式図



西町つつじ公園うどムロ



西元町 1 丁目 13-3 うどムロ

第 66 図　国分寺市内のうどムロ平断面図